九州大学 経済学部

School of Economics

経済・経営学科／経済工学科

CAMPUS GUIDE 2022

経済学部長あいさつ

経済学部長
［経済学府長
経済学研究院長］
大石 桂一

1924-2022

2014年に創立90周年を迎えた九州大学経済学部は、新キャンパスで未来を拓きます。

2018年９月に新キャンパスへ全面移転した本学部は、長い伝統を誇ります。1924年に九州帝国大学法文学部経済科として発足して以来、この90余年の間に、経済学部、大学院修士課程・博士課程を巣立っていった人びとは、２万人を超えています。民間企業、そして学界や官公庁にも多くの優れた人材を輩出することによって、日本経済の発展に貢献するとともに、教育・文化、ひいては日本社会全体の発展に貢献してきました。本学部・学府は、先輩たちが築いてきたこの伝統を受け継ぎ、ますます変化を速め複雑化・多様化しつつある現代社会のなかで、経済の動向を的確に把握し、創造的な問題解決能力を持ち得る人材を育成することを目標としています。

経済学部には、1000名を超える学生が在籍し、入門科目から専門性の高い科目へと、学年の進行とともに積み上げていく体系的カリキュラムのもとで学んでいます。

学部では積み上げ方式のカリキュラムが体系的に提供され、すべての学年において自らの学習目的に沿った小人数の演習（ゼミナール）を受講することができます。さらに経済学部には、「修学カルテ」を用いたユニークな修学指導の体制があります。修学指導は、年２回実施され、１年次の前期終了時には、１年生全員に対する面談が実施されます。大学院への進学をめざす学生には、「学部・学府一貫教育プログラム」という独自のプログラムが用意されています。３年前期までに優秀な成績をおさめた学生やゼミ指導教員から

の推薦を受けた学生が、このプログラムに応募でき、プログラム参加を認められた学生は、４年次から大学院講義を受講し、修士課程特別選抜試験を受験することができます。

伝統を引き継ぎ、創立100周年に向けて新たなチャレンジを!

21世紀に入り新たな段階に入ったグローバル化は、本学部での教育のあり方にも様々な課題を突きつけています。経済学部では、2018年度に、グローバル人材育成を目指す教育プログラムとして**「経済学部グローバル・ディプロマプログラム（GProE）」**をスタートさせました。このプログラムで育成を目指すグローバル人材とは、「新時代のグローバル化に対応可能な経済学の専門的知識を体系的に備えた人材」です。このプログラムに選抜された学部生に対しては、**「グローバル人材育成REAPRA基金」による奨学金制度**が用意され、高い専門性とともに英語等でのコミュニケーション能力、プレゼン・ディスカッション能力などを身につけることができます。

さらに、2018年度には、九州大学の他の文系学部と協働し**「文系４学部副専攻プログラム」**を立ち上げました。このプログラムを通じて、経済の専門性を学びながら、専門を超える学際的課題について考えたり、別分野の専門の扉をたたいたりすることができます。

2020年初より新型コロナウイルスが世界に蔓延し、世界経済も大きく損傷しています。こうした中、経済学部・学府・研究院が直面する新しい教育研究上の諸課題に次の100年を見据えて積極果敢に挑戦し、2024年の経済学部創立100周年を迎えたいと思います。

目次

経済学部長あいさつ
2 組織・学科
4 入試のしくみ
6 カリキュラム
8 ゼミ紹介
10 教員紹介
21 卒業生・修了生からのメッセージ
24 学生生活支援
25 国際交流
26 大学院案内
27 就職状況
28 伊都キャンパス移転完了

THE SCHOOL OF ECONOMICS

組織・学科

経 済 学 部

経済・経営学科

幅広い教養 豊かな現実感覚と国際性を身につける

経済・経営学科では、経済学・経営学の基礎理論と幅広い教養、豊かな現実感覚と国際性を身につけることによって、複雑化し多様化する現代経済社会が直面する諸問題に的確に対処し、その解決策を見出していける人材を育成していきたいと考えています。

この目的のために、経済・経営学科では2006年のカリキュラム改革により、従来の2コース制を廃止し、「経済分析系」・「産業分析系」・「企業分析系」の3つの系統に専門科目群を分け、多様な問題関心と卒業後の進路に即した履修体系が組めるようにしました。

「経済分析系」は今日の経済社会が抱えている問題を理論的・構造的視点から把握・分析し、それらの問題に立ち向かい、解決していく分析力・企画力・創造力をそなえた人材を育成することが目標です。

「産業分析系」は激しく変化する産業社会を歴史的・実証的に分析し、将来動向を予測、的確な具体的政策を企画できる、柔軟で創造的な応用能力をもった人材を育成することを目標にしています。

また、「企業分析系」は、内外に活動の場を広げている企業の活動を理解し、その抱える問題に対処していく分析能力を持った人材を育成することを目標にしています。

経済工学科

経済諸問題を総合的に捉え、分析し、創造的に解決する能力を身につける

経済工学科は、理論と分析ツールおよびその応用を一体的に学び、「経済を総合的に捉えていく能力」の修得をめざす学科です。特徴の第1は、数量的なアプローチに重点を置いている点です。スタッフも経済学だけでなく、工学、理学など、様々な分野出身の研究者がそろっています。第2に、現実経済への働きかけとしての政策がもつ役割を重視しています。理論モデルを設定し、計量分析手法を用いて諸政策の効果を検討することに加えて、課題解決へむけた創造的な思考法を身につけることに力点が置かれています。

経済工学科は、経済システム解析、政策分析、数理情報の3分野から構成されています。経済システム解析の分野は、経済の諸問題を、マクロ経済、ミクロ経済の双方のレベルで数理、数量的手法を用いて分析しようとするものであり、政策分析の分野は、多様な経済問題に対する諸政策を分析・評価するための手法を学び、新たな政策提言を行うという課題をもっています。数理情報の分野では、経済分析のための統計的・数学的基礎、大量の情報を管理し処理するための数学的な基礎知識、コンピュータの基礎と実践的な応用について学びます。

＼ 経済学部で人気の、二つの魅力的なプログラムをチェックしよう！ ／

経済学・経営学の専門知識を武器に、世界に羽ばたこう！

1. GProE（ジー プロ イー）［経済学部グローバル・ディプロマプログラム］

英語講義や留学を通じて、
経済学・経営学分野の専門性を
グローバルな場で積極的に展開する力を身につけます。

◎定員10名。「将来グローバルに活躍したい」という希望を持つ経済学部1年生を対象に、入学後の成績、英語力、志望動機などを審査して選抜。

◎魅力的なプログラムが盛りだくさん！

2 年 次：外国での短期語学研修（*NEW!*奨学金制度あり）、日本の経済や経営に関する英語授業など

3-4年次：外国からの招聘教員による英語集中講義、交換留学制度を利用した長期留学、英語での論文執筆など

◎GProE生には大学院進学のための「学部・学府一貫教育プログラム」参加資格も付与！

NEW!

GProE（ジー プロ イー）選抜学生への奨学金制度

外国での短期語学研修費用の一部を最大で約20万円補助！

※本制度は諸藤周平氏によって創設された「グローバル人材育成REAPRA（リー・プラ）基金」が運営します。

オーストラリアでの短期語学研修から帰国したGProE生

深く・広く学んで、大きな翼で世界に羽ばたこう！

2. 文系4学部副専攻プログラム

経済学・経営学分野の専門性を基礎に人文学・社会科学分野の広い知識を
体系的に身につけることができます。

プログラムと科目例　＊文学部・教育学部・法学部・経済学部が共同で提供

◎**現代のための歴史**
現代史入門、史学概論、イスラム史学、教育史、政治史、経済史等

◎**クロス・アジアの人間と社会**
Citizenship Education in Contemporary Asia I、Education and Modern State Formation in Asia and Europe (lectures) I、アジア宗教思想、中国法、グローバル化とアジア経済等

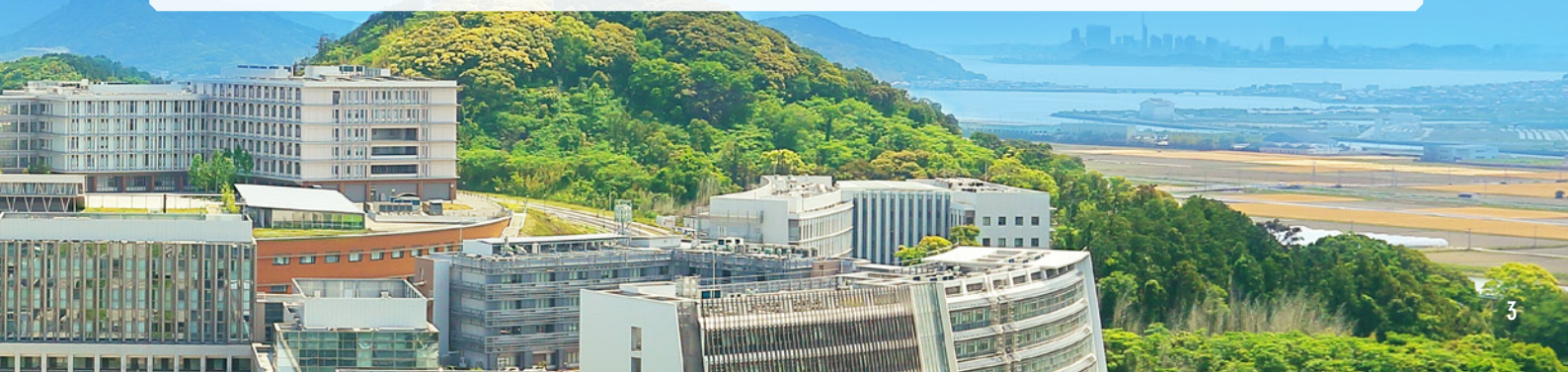
◎**超情報化社会の文系知**
情報法、法情報学、情報サービス論、教育とコミュニケーションデザイン、情報経済等

◎**グローバル時代のビジネス**
現代日本経済論、国際ビジネス、国際取引法、比較教育学、比較宗教学等

横断型プログラム

現代のための歴史
クロス・アジアの人間と社会
超情報化社会の文系知
グローバル時代のビジネス

文学部　教育学部　法学部　経済学部



最新の入試の詳細は、
九州大学の「学生募集要項」をご覧ください。

各選抜の2022年度入試募集要項の公表時期（予定）は以下のとおりです。

- 総合型選抜Ⅱ*……8月下旬
- 一般選抜（前期日程・後期日程）……12月中旬

新型コロナウイルス感染症に関する状況に応じて、選抜方法等が変更になる可能性があります。最新の状況は、ホームページ上でご確認ください。

*経済・経営学科のみ

こちらから
ご覧いただけます
▼

https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/admission/

過去の入試の事例（2021年度入試）

一般選抜

前期
◎経済・経営学科 93名募集
◎経済工学科 66名募集

後期
◎経済・経営学科 26名募集
◎経済工学科 19名募集

2020年 10月初旬 **大学入学共通テストの出願**
※大学入学共通テストの発表等により確認してください。

2021年 1月16日・17日 第1日程 **大学入学共通テスト** ※
◎経済・経営学科 5教科7科目または6教科8科目 前期
◎経済工学科 5教科7科目 前期 5教科6科目 後期

1月25日～2月5日 **願書受付**
［第2日程］［特例追試験］については、下記日程（★）をご参照ください。

2月15日頃 **第1段階選抜結果発表**
入学志願者が多数の場合には、大学入学共通テストの成績に基づき、前期日程については募集人員の約4倍、後期日程については約7倍までの選抜を行います。

前期日程

2月25日・26日 **前期日程個別学力検査**
◎経済・経営学科 国語・数学・外国語の3教科
◎経済工学科 国語・数学・外国語の3教科

3月8日 **合格者発表**

3月15日 17時まで **入学手続期間**

入学

追試験 3月22日（月）
前期日程又は後期日程試験を新型コロナウイルス感染症等により受験できなかった者及び移動制限により受験できなかった者を対象

後期日程

3月12日 **後期日程個別学力検査**
◎経済・経営学科 小論文（英文を主とした出題によって、英語の学力及び社会・文化に関する理解力と思考力をみる）
◎経済工学科 小論文（数学的思考力をみる）

3月21日 **合格者発表**

3月27日 17時まで **入学手続期間**

入学

総合型選抜Ⅱ

※経済・経営学科のみ

◎22名募集

2020年 11月4日～11月13日 **願書受付**

11月下旬～12月中旬 **第1次選抜**
調査書又は調査書に代わる書類と志望理由書の総合評価により選抜を行い、募集人員（22名）の2倍程度の受験生を第1次選抜の合格とします。

12月下旬 **第1次選抜合格者発表**

2021年 1月16日・17日 第1日程 **大学入学共通テスト**
5教科又は6教科8科目

1月23日 **第2次選抜**
小論文・面接（大学入学共通テストの成績を加えて総合的に評価）

1月30日・31日 第2日程★ **大学入学共通テスト**

2月13日・14日 特例追試験★ **大学入学共通テスト**

2月15日 **最終合格者発表**

入学

経済・経営学科については、2021年度より総合型選抜を実施しています。

「総合型選抜」について ※経済・経営学科のみ

2020年の秋より、経済・経営学科において新たに総合型選抜が始まりました。この入試は、従来AO入試とよばれていたものであり、一般選抜（前期・後期）に加えて実施されます。
総合型選抜においては、大学入学共通テストの結果、調査書又はそれに代わる書類や志望理由書の内容、および小論文や面接の結果を通して、受験生の志望動機、知識、素養、思考力、適性などを多面的・総合的に評価します。なお、総合型選抜による募集人員は22名です。

第１次選抜

調査書
志望理由書

調査書又は調査書に代わる書類と志望理由書の総合評価により選抜を行い、**募集人員（22名）の2倍程度**の受験生を第1次選抜の合格とします。

▶▶▶

第２次選抜

大学入学共通テスト
5教科 又は 6教科8科目
＋
面接
小論文

第1次選抜に合格した受験生に対して小論文と面接を実施し、これに大学入学共通テストの成績を加えて総合的に評価します。

[募集人員の変更]

総合型選抜の実施にともない、経済・経営学科では一般選抜の募集人員が変更されました。一般選抜（前期）は110名から93名へ、一般選抜（後期）は31名から26名へ、それぞれ変更されました。なお、総合型選抜の入学手続者が募集人員に満たない場合、その不足した人員は一般選抜の前期日程入試の募集人員に加えます。

Q&A よくある質問

Q. 総合型選抜に不合格となった場合、一般選抜を受験することはできますか？

A. 第1次選抜で不合格となった場合はもちろんのこと、第2次選抜で不合格となった場合においても、一般選抜の前期日程および後期日程ともに受験することができます。その場合、他大学や他学部へ受験することもできます。

Q. 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目は、これまでの一般選抜とは異なりますか？

A. 一般選抜（前期）で求められる教科・科目（5教科又は6教科8科目）と同様です。ただし、配点は異なります。

Q. 募集要項に記載されている第2次選抜の「大学入学共通テストについては、満点の75％程度を合格最低基準とします」というのは、どういう意味でしょうか？

A. 第2次選抜では小論文、面接、および大学入学共通テストの結果を総合的に評価します。ただし、大学入学共通テストにおいて満点の75％程度の得点を得ていない受験生については、小論文や面接の結果にかかわらず、不合格となる可能性のあることを意味しています。

Q. 第1次選抜では何を評価するのでしょうか？

A. 第1次選抜は書類審査であり、志望理由書と調査書又は調査書に代わる書類を通して、受験生のこれまでの学習状況、志望動機、知識、素養、および思考力、さらに経済学や経営学に対する適性を評価します。

学修しやすく設計された、学部から大学院までの一貫した教育体系。

バランスのとれた教育体系

主に1年次で履修する基幹教育科目は、学習態度の涵養と知識の修得を主たる目的としています。経済学部での勉学の中心となる専攻教育科目は、2年次の基本科目と3、4年次の科目に大別されます。基本科目は経済学全般にわたって基礎となる科目です。基本科目の学習は3、4年次の専門性の高い科目へとつながります。これらのほかに、専門を越えた視点や知識の学習を促すために2年次以降で履修する基幹教育科目があります。

丁寧な修学指導

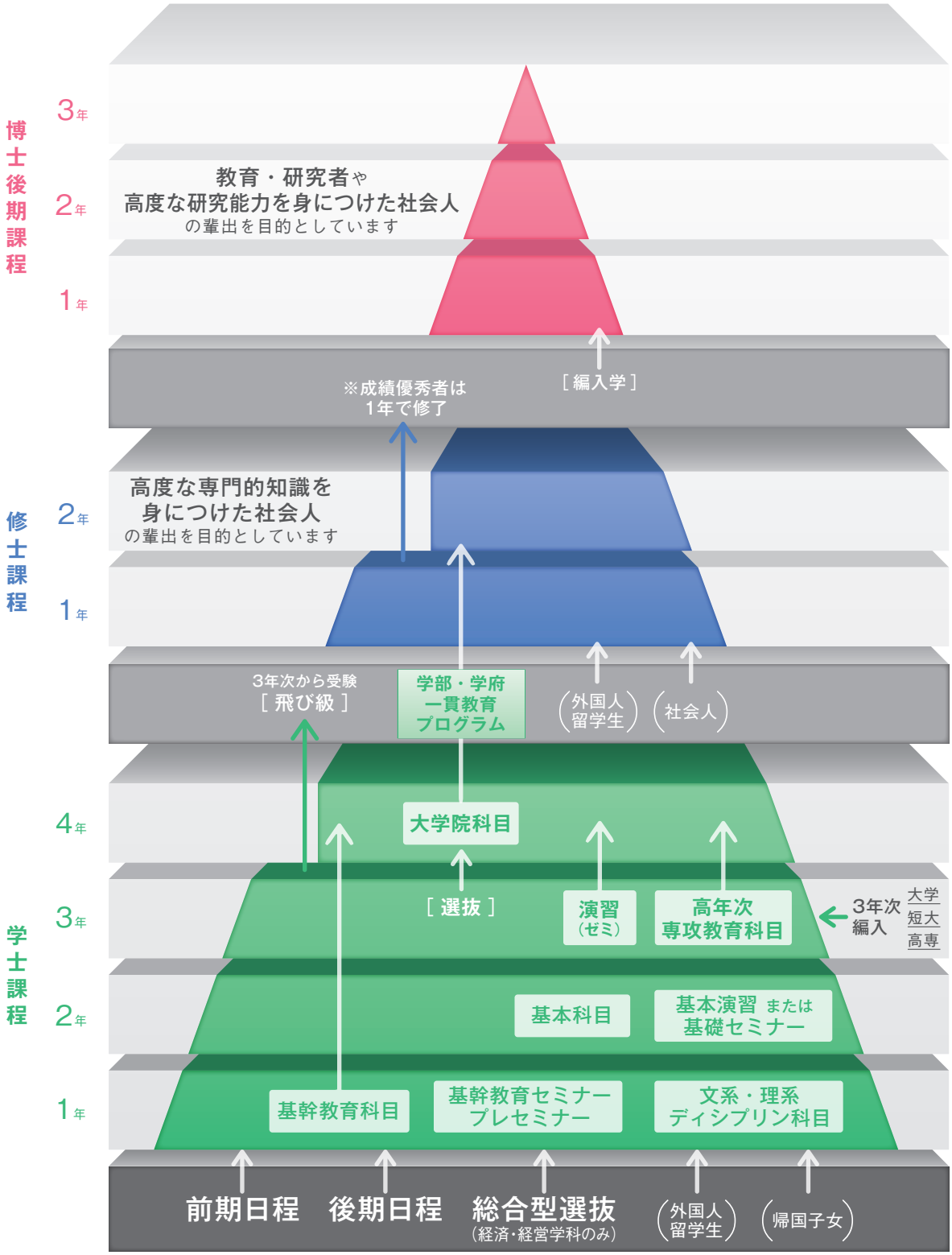
1年生の後期開始直前に全員に対して修学指導を行っているだけでなく、修学状況がおもわしくない学生に対しては教員が個別に面談する機会を定期的に設けています。また、2年次の基本演習または基礎セミナーや3年次からのゼミでは、担当の教員が個々の学生に対してアドバイスを行っています。

少人数のセミナーによるきめ細やかな教育

演習（セミナー、ゼミ）は教員と学生、学生相互が討議し学習を進めるもっとも特徴のある大学教育の場の1つで、各教員が独自の特徴のあるセミナーを行っています。入学後すぐに履修する基幹教育セミナーおよびプレセミナーで大学生としての学びの習慣を獲得します。2年次の基本演習または基礎セミナーから本格的なセミナーが始まります。3年次からの演習（ゼミ）は必修で、必ずいずれかの教員のゼミに所属することになります。ゼミでは教員の専門分野に従って学習します。自分の学習目的によってゼミを選択しますが、1学年最大10人程度のクラス編成としているため、ゼミへの参加は教員の許可が必要となります。2年次までに履修しておかなければならない基本科目が指定されているゼミもあります。

学部・学府一貫教育プログラム

大学院では学部教育よりもさらに高度な専門知識を身につけることができます。3年次前期までに優秀な成績をおさめた学生は、学部・学府一貫教育プログラムに応募することができます。同プログラムでは、4年次から大学院の講義を受講し、修士課程特別選抜を受験することができます。修士課程では、優秀な論文により通常2年の課程を1年で修了することも可能となります。


博士後期課程
3年
2年
1年
教育・研究者や
高度な研究能力を身につけた社会人
の輩出を目的としています
※成績優秀者は
1年で修了
［編入学］
修士課程
2年
1年
高度な専門的知識を
身につけた社会人
の輩出を目的としています
3年次から受験
［飛び級］
学部・学府
一貫教育
プログラム
（外国人留学生）
（社会人）
学士課程
4年
3年
2年
1年
大学院科目
［選抜］
演習
（ゼミ）
高年次
専攻教育科目
3年次
編入
大学
短大
高専
基本科目
基本演習 または
基礎セミナー
基幹教育科目
基幹教育セミナー
プレセミナー
文系・理系
ディシプリン科目
前期日程
後期日程
総合型選抜
（経済・経営学科のみ）
（外国人留学生）
（帰国子女）

ゼミ紹介

「九大経済学部に入って良かったと実感した」―― 3年次生になってゼミ（演習）で勉強を開始した経済学部生の多くが、毎年こうした感想を寄せています。ゼミでは、1-2年次に身につけた経済学の基礎知識をもとに、より専門的な理論的・実践的課題に挑戦します。大学で勉強することの醍醐味が、そこにあります。九州大学経済学部では、ゼミは「必修科目」で、卒業までに必ず履修しなければなりません。また、受講人数も平均4～6名、最大でも約10名と決められており、教員によるきめ細かい指導が行なわれています。ここでは、異なる分野から6つのゼミをピックアップして、ゼミでの勉強について紹介しましょう。

潮﨑 智美 ゼミ

経済・経営学科

財務会計を専門とする本ゼミでは、ビジネス・パーソンとなるのに不可欠な会計学の知識やスキルをまず修得します。さらに、会計を通じて見えるグローバル化の諸問題についても研究します。ビジネスの言語ともいわれる会計のルールでさえもなぜ国や地域で異なっており、なぜ統一させるのが難しいのか。経済的・政治的・社会的環境の影響を受けて形成されている各国の会計の状況、その国際的相違、ならびにその相違を減少させる取り組みなどの研究を通じて、考え方の異なる他者の価値観・信念をいかに受容していくか、いかに共有していくかといった未解決の社会経済的問題に挑みます。

また、ゼミでは、学生の自主性を尊重しながら、ゼミ内でのグループワーク・ゼミ合宿、学内外・国内外の研究室との合同ゼミ・交流会、国内外の企業や監査法人の訪問・インタビュー、国内外での研究発表などを積極的に行い、専門性・国際性・社会性・人間性を養っています。これらの経験を通じて、経済・経営の知識やスキルの修得にとどまらず、人間的に魅力のあるリーダーを育成することを目的としています。

［上］欧州中央銀行訪問
［下］海外の特別講師を迎えてのゼミ風景

水野 敦子 ゼミ

経済・経営学科

開発経済を専門とする水野ゼミでは、開発途上国・地域の経済開発について学びます。ゼミ学習は、やや専門的なテキストの輪読から開始します。輪読を通じて開発経済の基礎的な知識を修得し、開発途上国の抱える課題を考察します。また、日本の開発途上国に関わる機関を訪問し直接話を聞くことで、理解を深めます。これまでJICA九州、途上国へ技術支援をしている福岡市水道局や外国人技能実習生を受け入れている大山農協・阿蘇農協などを訪れました。

３年生は、メンバーの研究関心を考慮してグループを編成し研究に取り組みます。例年3つのグループに分かれ各々で研究課題を設定します。資料収集に手間取ったり、研究を進めるなかでチームワークが乱れたりといった苦労もしますが、学内インゼミでプレゼンを行い、研究成果をまとめあげたときには、達成感を味わうことが出来ます。

4年生は、グループ研究の経験を生かしてゼミ論文を作成します。これまでの7年間で62名の卒業生が、企業や官庁に就職したり、大学院に進学したりと様々な進路に進みました。現在は、3・4年生15名が共に学んでいます。

［上］ゼミ論文の完成
［下］阿蘇農協トマト農家の訪問

藤井 秀道 ゼミ

経済・経営学科

日本経済論を専門とする藤井秀道ゼミでは、定量的なデータを活用した分析により、日本経済の強みや課題について学びます。このゼミで大事にしている点は①学生が自ら手を動かしてデータセットの構築や分析を行うこと、②他の学生の研究報告に対して質問をすることです。

次にゼミでの活動について紹介します。3年生は5人1組で日本経済新聞社が主催する日経STOCKリーグに参加します。日経STOCKリーグは参加学生が日本経済や株式投資に触れながら、企業の取り組みや経済政策動向を学ぶ学習プログラムになります。このイベントへの参加を通じて、他学生と協力して目標に向けて取り組むためのノウハウを身に着けることが期待できます。2020年度に参加した学生の作成したレポートが高く評価され、九州大学のチームとして初めて入選を果たしました。

4年生では、3年生で実施した調査の経験を生かして卒業論文を作成します。研究内容はポスター報告会などで発表を行い、自分の考えを他者に伝えるスキルを身に着けます(写真[上]を参照)。これまでの3年間で14名の卒業生が、企業や官庁に就職したり、大学院に進学したりと様々な進路に進みました。現在は、3・4年生19名が共に学んでいます。

［上］ポスター報告会の様子
［下］卒業式の集合写真

宮﨑 毅 ゼミ

経済工学科

「財政」というと、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか?財政赤字、税金、役所の仕事などが挙がると思いますが、財政とは政府部門における経済活動のことで、その中には歳出、歳入、税制などが含まれます。したがって、財政について研究する学問である「財政学」は、学術分野の一つであるとともに実際の政策と密接に関連した実務的な学問ということができます。本ゼミでは、この財政学を学習しています。学術的な背景を無視した議論も多く行われているのが現状ですが、本ゼミでは、経済理論に基づいた「本物」の財政学、また財政学を学習するために必要なミクロ経済学や計量経済学を学習します。海外には多くの定評ある教科書があること、英語で学ぶ経験をしてもらうため、財政学は英語の教科書で学習しています。オリジナルな研究を論文にすることが研究の醍醐味なので、最終的には全員論文を執筆しています。なお、一緒に勉強する仲間との交流を図るため、定期的にコンパやゼミ合宿(夏)、スポーツ大会も実施しています。

[上] 新歓コンパ写真
[下] ゼミ合宿の様子

室賀 貴穂 ゼミ

経済工学科

室賀ゼミでは、労働経済学を専門とし、私たちの人生において身近なテーマである“労働”について学んでおります。賃金や労働時間はどのように決まるのでしょうか。なぜ男女間に賃金格差があるのでしょうか。労働経済学では、“労働”に関わる社会現象を経済学の考え方を用いて解明します。さらに、“働くこと”と“生きること”は密接につながっているため、家族形成・教育といったテーマも分析対象として扱います。

社会現象を経済学の考え方を用いて解明するためには、手法を身につけることが必須ですから、はじめに教科書の輪読を行い、ミクロ経済学や計量経済学の知識を習得します。さらに、グループワークでは、各グループでテーマを決め、現実の諸問題が「なぜ起きているのか」「解決するためにはどうしたらいいのか」という点について、実証分析の手法を用いて研究を行います。

他のゼミ生との議論や共同作業を通じて、能動的な本物の学びを経験してください。学びを通して得た知識や思考力はあなたの財産になります。九州大学を卒業された後も、職場や家庭等の人生の様々な場面で役立つ力を養っていただきたいと願っております。

[上] 2020年度メンバー
[下] 2021年度メンバー

小室 理恵 ゼミ

経済工学科

小室ゼミでは、時間変化による現象を微分方程式で表すことを中心に学習しています。3年次に教科書を精読して数学的な基礎知識とその応用を身につけ、4年次には発展的な内容の書籍や論文を読んで応用力を養います。また、ソフトウェアを用いて結果を解析する方法も学習します。4年次後半には、それまでの学習のまとめとして、個人あるいはグループで卒業研究を行います。興味のある現象を選択してそれを微分方程式で数式化し、その結果を解析する等して卒業研究レポートにまとめます。最近の卒業生は、「新製品の普及と広告戦略」、「景気循環」、「ウイルスによる感染症」といったテーマで卒業研究を行いました。これらは何の関連もないように思えるかもしれませんが、数学の問題として考えると、どれも微分方程式で説明できるというのが興味深いのではないでしょうか。

知識を積み重ねていくので、2学年合同の授業は難しいのですが、せっかく同じゼミに所属しているので、4年生が3年生にソフトウェアの使い方を教える講習会を行う、4年生の卒業研究発表会に3年生に参加してもらう等して3・4年生が顔を合わせる機会を年に何度か設けています。また、皆で集まってピザを注文して食べたり、ケーキを買ってきてお茶会をしたり、そして学外で食事をする等して親睦を図っています。

[上] ゼミ風景
[下] 集合写真

教員紹介

九州大学経済学部では、経済学の各分野の第一線で活躍する教授陣が、講義やゼミ（＝少人数クラスの「演習」科目の略称）を担当しています。ここでは、各教員の専門分野と担当講義・ゼミについて紹介します。

各教員の研究内容や著書などについて、さらに詳しく知りたい皆さんは、「九州大学経済学部ホームページ」* の「教員スタッフ一覧」に是非アクセスしてみてください。また、それぞれの講義やゼミの目標や内容をより詳しく記した「授業計画、シラバス（Syllabus）」も上記ホームページの「時間割・シラバス（学部）」に掲載されています。併せて参照ください。　　* URL: http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/

加河 茂美
KAGAWA Shigemi

統計計量分析

［研究テーマ］
❶循環型社会経済システムの環境経済評価
❷持続可能な消費行動分析
❸国際貿易とエネルギー・環境の関係分析

［講義・ゼミ紹介］
私の学部担当講義は、主に2年次生を対象とした『計量経済学Ⅰ』、『外国書講読（英語経済）』、『現代経済システム基本演習』の3つです。『計量経済学Ⅰ』の講義では、家計消費や国民所得といった様々な社会経済統計間の関係を数量的に分析するための基本的な手法について解説し、計量経済学の入門コースを提供しています。『外国書講読（英語経済）』、『現代経済システム基本演習』の講義では、それぞれ、経済システムと環境・資源管理の関係について論じた英語文献、日本語論文の内容についての発表を行い、英語文献の読解力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を鍛えるだけでなく、地球温暖化問題、エネルギー問題、埋立処分場問題、廃棄物リサイクル問題、廃棄物輸送問題の核心ならびにその経済学的な処方箋について学習しています。

八木 信一
YATSUKI Shin-ichi

財政システム

［研究テーマ］
❶地域ガバナンスと地方財政
❷地域環境ガバナンス
❸自治の質量と橋渡し組織

［講義・ゼミ紹介］
主な担当講義は、3・4年次生を対象とした「地域政策」です。とくに、都道府県や市町村といった地方自治体が担う地域政策（自治体地域政策）と、それを支える地方財政との関係について、「三割自治」という日本的特徴から三位一体改革や夕張市の財政破たんなどの動向までを網羅しつつ、現実や現場をつねに意識した上で理解できるようにしています。

また、ゼミでは、自治体地域政策や地方財政に関する専門文献の輪読はもちろんのこと、それに加えてゼミ論文を作成し、学内外で報告の機会を設けています。これまで、北部九州港の港湾政策、博多の屋台を通じた地域活性化、および都市における単身高齢者問題の分析などをテーマとして取り上げ、現状分析や課題提示だけでなく、具体的な政策提言も行ってきました。みんなでともに学び、夢を語り合い、悩みを共有し、そして現実をより良い方向に変えていく。そんな高い志を持った、（私も含めた?）若人が集うゼミです。

前田 真一郎
MAEDA Shinichiro

金融システム

［研究テーマ］
❶アメリカの金融システム
❷リテール・ファイナンス
❸キャッシュレス決済の進展

［講義・ゼミ紹介］
主な担当講義は、3・4年次生を対象とした「金融システム」です。世界各国にて異なる形で形成されてきた金融システムは、金融グローバル化の進展や金融技術革新によって結び付きを強めています。その動きを見ることにより、現代における金融システムがどのように形成されてきたのかを学びます。その理解をもとに、現代経済におけるさまざまな事象・動向を金融システムの側面から考察します。

ゼミでは、「グローバル化と金融」をテーマに、グローバル化する経済のなかにおける金融の役割について考察します。金融の理論を踏まえたうえで、現代において世界的に進んでいる事象（例えば、シェア経済やフィンテックなど）をもとに、その広がりと金融との関係を幅広い視点で見ていきます。各グループでの研究発表および全体討論を行い、研究成果をプレゼンテーション大会やインターゼミ等で発表します。また実際に企業の方をお呼びし、討論を行う機会も設けています。

岩田 健治
IWATA Kenji

国際金融

［研究テーマ］
❶EUの金融・通貨統合
❷国際通貨の多極化と国際通貨制度
❸金融システムの国際比較

［講義・ゼミ紹介］
世界経済の動きに興味がある人は、2年次生になったら基本科目「国際経済学」の講義を受講すれば、そうした動きを経済学的に分析するための基礎的な理論を身につけることができます。3-4年次生向けの「国際金融」講義では、国際通貨制度の歴史的発展、金融グローバル化と通貨危機、通貨統合の歴史と意義、世界金融危機など、国際金融の歴史や最新のトピックについて、より深く学ぶことができます。

ゼミでは「現代の国際金融」について幅広く研究を行っています。基本的なテキストを全員で講読した上で、3-4名のチームに分かれて、テーマを決め、研究を行います。最近では、「仮想通貨からデジタル通貨へ」「MMTとユーロ」「人民元の国際化」などをテーマに勉強しました。その研究成果は、毎年秋に全国の大学との間で開催される「国際金融インターゼミナール」で発表し、議論を深めます。

清水 一史
SHIMIZU Kazushi

世界経済

［研究テーマ］
❶ASEANの域内経済協力・経済統合
❷アジア・太平洋地域の経済統合・地域統合
❸統合の比較研究

［講義・ゼミ紹介］
1年次生用の授業では、入学直後の入門ゼミである「基幹教育セミナー」などを担当します。また、2年次用の基本科目では「国際経済学」などを担当します。「国際経済学」では特に国際貿易論を担当し、国際貿易の理論（たとえばリカードの貿易モデル）や現実（たとえば日本とアジアやアメリカとの貿易）について講義します。3-4年次生用の専門科目では、「世界経済」などを担当します。「世界経済」では、グローバル化し構造変化を続ける世界経済を、現実、歴史、理論の面から総合的に分析します。学部のゼミでは「世界経済の構造変化と東アジア」をテーマとして、世界経済全体の構造変化の下での東アジアの貿易・投資構造、東アジア地域経済協力・経済統合・共同体構想、東南アジア・NIES・中国の経済発展や工業化などを分析します。テキストの輪読や研究報告、卒業論文報告などを行います。また、他大学との合同ゼミナールや工場見学なども行います。

石田　修
ISHIDA Osamu

貿易投資分析

［研究テーマ］
❶貿易と多国籍企業の活動からみた世界経済分析
❷グローバル生産システムと企業活動
❸貿易の実証分析と理論的検証

［講義・ゼミ紹介］
2年次生になって学ぶ国際経済学Ⅰでは「モノとサービス」の国際的取引（貿易活動）を産業・企業・消費者の視点から学習します。また、国際経済学Ⅱでは「モノ、サービスそしてカネ」の国際取引を国の視点から学習します。さらに、3年・4年次生で学ぶ「貿易投資分析」は、現代の貿易取引と国際的な企業活動の動向を詳しく解説し世界経済の構造を分析します。なかでも、グローバル・インバランスの構造、日本を中心としたアジア域内と域外の貿易構造、日本やアメリカの先進国の企業行動、そして、韓国・台湾・中国などのアジア企業の役割から世界経済を理解してもらいます。
ゼミでは、社会人として必要な能力を身につけます。つまり、①国際経済・国際ビジネスの知識、②デスカッション能力（人の意見を的確に吸収し、同時にそれに対して効果的に意見を述べること）、③自己表現の効果的な方法（たとえば魅力的なプレゼンテーション方法、レポートの書き方、ICTを使った表現方法）を学びます。このような能力は君たちの無形の資産として、社会に出ても必ず役に立つものと思います。

篠﨑 彰彦
SHINOZAKI Akihiko

情報経済

［研究テーマ］
❶情報経済の理論と実証（マクロ分析）
❷情報経済の理論と実証（ミクロ分析）
❸情報経済の理論と実証（グローバル分析）

［講義・ゼミ紹介］
私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。1年次の必修科目「経済学入門」では、この一見当たり前に思える現象を効率的に行う市場メカニズムとはどのようなものかを学びながら経済学の基本を身につけます。2年次の基本演習では、複雑な経済活動の実態を明快に理解していくために必要な統計処理、データ加工、文献情報の収集、サマリーの仕方の基本を学びます。専門分野を学ぶ3－4年次には、情報技術革新をテーマに、私たちの経済社会に何が起きているかを現実の企業、産業、経済にも関心を向けてグローバルな視点で考察を深めます。ゼミでは、情報経済の実態把握とその経済学的な理解をブレーン・ストーミング型のディスカッションで深め、積極的なチームプレーを通じてゼミ論文を仕上げます。

チャップマン アンドリュー
Andrew Chapman

エネルギー経済

［研究テーマ］
❶エネルギーシステムの持続可能性評価
❷低炭素社会への移行に伴う社会的公平性
❸水素社会導入の経済・環境・社会分析

［講義・ゼミ紹介］
私は現在カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所でマルチスケール構造科学ユニットにて低炭素エネルギーシステムへの転換を中心に研究を進めています。経済学部での担当講義は「エネルギー経済」となり、講義ではエネルギーシステム、エネルギー政策、そして持続可能性評価の三つのサステナビリティ軸を考慮しながら学びます。講義、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて、サステナビリティの包括的な評価について議論します。エネルギーシステムの変化、エネルギー政策実施等がもたらす経済、環境、社会指標への影響に着眼点を置き、評価基準や持続可能性の定義についても議論し、システム全体を考える人材を育てたいと思っています。「エネルギー経済」に加えて、「GproE」、経済学部グローバル・ディプロマプログラムの教育に関わります。経済学、エネルギー経済等の教育と共に、海外での留学経験を最大限に活用できるよう、九大生をサポートしたいと思っています。

水野 敦子
MIZUNO Atsuko

開発経済

［研究テーマ］
❶開発途上国農村の経済構造変動
❷低所得国の工業化と縫製業
❸ミャンマー経済研究

［講義・ゼミ紹介］
主な担当講義は、2年次生向けの「政治経済学」と、3・4年次生向けの「開発経済」です。「政治経済学」では、政治経済学の基礎を理解したうえで、資本主義の歴史的背景と動態について学びます。
「開発経済」では、時系列的発展を意識しつつ総括的に基本的な理論と開発の課題について説明したうえで、具体的な事例を取り上げつつ現代の開発課題を学びます。
ゼミでは、開発途上国・地域の経済開発について学びます。テキストの輪読や国際開発援助を行っている機関への訪問などによって開発課題への理解を深めます。次いで、3年生ではグループを編成し研究に取り組み、4年生でのゼミ論文の作成に向けて主体的な学習力を養います。

深川 博史
FUKAGAWA Hiroshi

国際農業政策

［研究テーマ］
❶TPP農業交渉
❷WTO農業交渉
❸農業競争力の国際比較

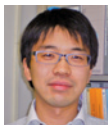
［講義・ゼミ紹介］
学部講義では主に、農産物市場開放を巡る国際交渉について紹介していきます。米国と欧州は、かつて国際農産物市場で対立し、双方の農業政策の調整を目指して交渉を進めました。米国と欧州の交渉合意後は、日本の農業保護が争点となり、日本は輸入義務量を設定し、WTO交渉に参加してきました。
近年のTPPコメ交渉では関税維持と輸入枠設定により合意しましたが、関税を下げて財政で農業を保護する欧米に比べ、日本の農政は関税を維持し消費者が高価購入負担する保護方式と評され、農業政策の国際対応が問題となっています。学部講義では、このような国際農業政策の争点についても紹介する予定です。
ゼミでは、前期に国際農業政策や地域振興のテキストを輪読し、後期はゼミ論文を作成します。ゼミ参加者には、ゼミ論文作成により自主研究の成果を示すよう指導しています。

藤井 秀道
FUJII Hidemichi

現代日本経済論

［研究テーマ］
❶環境保全と経済成長の両立可能性
❷持続可能な開発目標とESG経営
❸技術の研究開発戦略分析

［講義・ゼミ紹介］
私の学部担当講義は、主に3・4年次生を対象とした「現代日本経済論」です。「現代日本経済論」の講義では、経済の変化を理解するための基本的な視点を身につけるとともに、戦後から今日における日本経済の変遷について紹介します。さらに現在の日本経済が直面する多様な課題について論じるとともに、学生自身で政府統計や企業の有価証券報告書を活用し、日本経済の現状について理解を深めることを目指します。
次にゼミについて説明します。3年次のゼミでは、既に発表されている研究論文の調査を進め、「企業」、「環境」、「技術」をキーワードとしたテーマで、どのような研究がこれまでに行われてきたのかについて理解を深めます。その中で、これまでの研究では明らかになっていない点を明確にし、研究テーマの設定を行うことを目的とします。4年次のゼミでは一人一人が専門分野を持って、さらに文章を書く技術を身に着け、卒論を仕上げていきます。卒論は、各学生が興味を持った研究テーマに沿って、論文題目を決定していきます。卒業論文を執筆していく過程で、見やすい発表資料の作成方法や、データの整理方法など、社会人として働く中で必要不可欠なスキルを身につけることを目指します。



與倉 豊
YOKURA Yutaka

産業配置

［研究テーマ］
❶産業集積論
❷地域イノベーション
❸経済地理学

［講義・ゼミ紹介］
身近な産業を見渡すと、ある産業は特定の地域や都市に集中し、また別の産業では分散して立地するというような事例を見つけることができます。3・4年次生を対象とする「産業配置」では、そのような企業や産業の立地の違いについて、産業の特性や、立地主体である企業を取り巻く様々な外部環境に着目します。講義では、特に立地論の観点から、産業立地に関する話題を取り上げ、豊富な事例から実態を理解していくとともに、産業立地の諸課題を扱う際に役立つ数理的な手法についても紹介します。
ゼミでは地域経済や産業地域をめぐる様々な現代的テーマに関して、「経済地理学」を土台とした研究を遂行していきます。経済地理学は経済活動の地理的な側面に光を当てる学術分野なので、対象地域も対象産業も様々なものが考えられます。専門的な論文の輪読を通じて、地域経済を分析するためのアプローチを学び、4年次には卒業論文の作成を目指します。

堀井 伸浩
HORII Nobuhiro

産業構造

［研究テーマ］
❶中国の市場経済移行と産業構造変動
❷中国のエネルギー産業・環境産業
❸中国の大気汚染問題と環境政策

［講義・ゼミ紹介］
中国は2010年に日本のGDPを凌駕して、世界第2位の経済大国となりました。ピンと来ます？中国の経済発展の凄さを知るには産業に注目することが有効です。中国経済の躍進を支える企業と企業に影響を与える様々な条件を調べれば、中国の強さについて、また逆に直面している課題について具体的に理解することができます。私が担当している「中国語経済」と「産業構造」はそうした観点から日本との比較も交えて分析します。
ゼミでも学生はグループに分かれて特定産業のリサーチを行います。2021年は化粧品、観光、鉄鋼、ゴミ発電、航空機製造、タバコなどの産業研究、炭鉱地域の環境問題、エネルギー企業の海外進出といった課題研究が進行中です。グループは日本人学生と中国人留学生で構成され、知の国際協働のプラットフォームとなります。夏休みには中国に現地調査に行きます（残念ながら新型コロナ流行で2020年は実施できず）。現場に根ざした中国理解と一生モノの外国の友人、これがゼミから得られる財産になるはずです。

鷲崎 俊太郎
WASHIZAKI Shuntaro

日本経済史

［研究テーマ］
❶日本経済史
❷近世・近代都市の土地市場史・不動産経営史
❸近世日本の生産要素市場史

［講義・ゼミ紹介］
2年次の基本科目「経済史Ⅰ」と、3・4年次の専門科目「日本経済史」を担当しています。「経済史Ⅰ」では、16〜20世紀のアジアと欧米の関係に着目しながら、日本の経済や企業経営の果たした役割を探究します。「日本経済史」では、1600年代から1930年代の400年間にわたる日本の経済システムの変遷と意義を学びます。
ゼミでは、徳川期〜近現代の日本経済について、現代の諸問題と比較しながら分析できる能力を身につけます。本年度は、11月に関西大学・福岡女子大学・西南学院大学・公立鳥取環境大学・流通経済大学との六大学インターゼミを開催し、12月には経済学部内の4ゼミ（他に堀井・北澤・水野の各ゼミ）で合同の報告会を開催し、1年間の研究成果を披露しています。『歴史は講義室で起きているんじゃない、現場で起きているんだ！』をモットーにして、日本経済に関わる博物館や工場を訪問したり、図書館・資料館で文献を収集してみたりと、校外学習（フィールドワーク）を重視している点が、鷲崎ゼミの特徴です。

北澤　満
KITAZAWA Mitsuru

産業社会史

［研究テーマ］
❶近現代日本産業史
❷近代日本経営史
❸近代日本の産業発展と実業教育

［講義・ゼミ紹介］
3・4年次生を対象とする「日本経済史」では、江戸時代（近世）〜高度成長期について、日本経済の歴史を概観します。ここでは、一つのことがらについて複数の見方・考え方がありうること（「正しい見方」は一つではないこと）を学習してほしいと思います。ほとんどのみなさんにとって、関心があるのは現代（または未来）の日本経済でしょうが、それを考えるうえで、現代日本経済の成り立ちを考えることも、重要な作業です。
ゼミでは、広く日本の産業社会について学んでいます。さらに細かいテーマは、参加学生の希望にあわせているので毎年かわります。これまで、日本の財閥・企業家活動・談合の成り立ちなどについてテキストを購読したり、研究発表をしたりしてきました。また、工場や資料館などの見学も、活発に行っています。

藤井 美男
FUJII Yoshio

西洋経済史

［研究テーマ］
❶西欧中世後期・近世初頭における手工業史
❷西欧中・近世都市史・財政史
❸近代国家形成史
［2021年度末定年退職予定］

［講義・ゼミ紹介］
経済学部で私が主に担当するのは、2年次で学ぶ「経済史Ⅱ」あるいは3年次生からの「西洋経済史」という科目です。西洋経済史について特に記しますと、これは、西洋においてなぜ最初に近代的な市場社会が成立したのかということを、様々な歴史学的視点から考察しようとする科学です。実は、歴史を科学するということは、過去のある時点を固定して単純に捉えたり、過去の事実を事実としてのみ記憶し、説明することではありません。人類の過去の経緯をどのように科学的な法則として把握するか、そしていかにそれを現在と未来に投影させるか。それこそが西洋経済史の役割であり、私たちの勉学の目的なのです。3〜4年次生のゼミではそういう大きな枠組みを考えつつ、受講生を主体にして、テキストの講読・個別発表という方式で学んでいます。

大坪　稔
OTSUBO Minoru

経営政策

［研究テーマ］
❶経営財務
❷コーポレート・リストラクチャリング
❸資本提携

［講義・ゼミ紹介］
講義は、「経営学」と「経営政策」を担当しています。「経営学」は主として2年生を対象としており、株式会社の仕組みや日本企業に特徴的と考えられてきた経営手法について学習します。企業には、株式会社をはじめとして、合名会社や合資会社など様々な形態が存在します。他の企業形態と比較して、株式会社にはどのようなメリットやデメリットが存在するのか、などについて学習していきます。
「経営政策」は、3年生以上を対象としており、日本企業がこれまでどのように資金調達を行ってきたのかについて学習します。そのうえで、現代の大企業の主要な資金調達手段である株式や社債にはどのような種類があり、これらの理論価格をどのように計算するのかについて学習します。
また、ゼミでは経営財務について学習します。経営財務は、資金調達や投資決定など企業経営のなかでもお金に関連した分野を対象としています。さらに、現実の企業がどのように経営を行っているのかについて各学生に自分の興味のある企業を選んでもらい、財務分析を行ってもらいます。

内田 大輔
UCHIDA Daisuke

日本経営論

［研究テーマ］
❶経営戦略論
❷経営組織論
❸コーポレート・ガバナンス論

［講義・ゼミ紹介］
私たちは、日々いたるところで、企業との関わりをもち、様々な経営現象を目にしています。コンビニの近くに新しいコンビニができたり、同じ会社がわざわざ異なるブランドで商品を展開したりといった身近なものから、企業不祥事やM&Aといった紙面を賑わすものまで、どれも経営戦略論や経営組織論といった経営学の領域において扱われる経営現象です。講義やゼミでは、長年にわたって蓄積されてきた経営理論を理解し援用する力、社会科学的に妥当な方法を用いて思考する力を養うことで、このような経営現象が「なぜ」生じているのかを実証的に分析することに取り組んでいます。そして、このような学びを通じて新たな知見を得た後に、いつもと同じ世界が少し違ったふうに見えるようになることを目指します。

中本 龍市
NAKAMOTO Ryuichi

経営管理

［研究テーマ］
❶経営学
❷組織論
❸国際経営論

［講義・ゼミ紹介］
講義は、主に、3・4年次向けの「経営管理」を担当しています。経営管理は、経営学の中の伝統的なテーマです。現代的には、マネジメントと呼ばれることが多く、それは周囲を巻き込んで目標に向けて動かしていくことです。マネジメントというと比較的新しい考えのように思われますが、実は、長い間、人類に寄り添っている思想であり方法です。ピラミッドや古墳を作る過程でも用いられていたはずです。講義ではマネジメントを組織論を中心にして学びます。
演習では、経営学を中心にしつつ、幅広く学びます。マネジメントで直面する問題はしばしば領域を横断的です。経営学では、こうした問題を解くため、どんな理論、方法でも貪欲に取り入れている現状があるからです。演習の到達目標は、1.戦略や意思決定と結果の間にある因果関係を理解できるようになること、2.定性的、定量的な調査・分析ができるようになること、3.それらに基づいてエビデンスに基づいた主張ができるようになることです。

岸野 早希
KISHINO Saki

人的資源管理

［研究テーマ］
❶人的資源管理論
❷組織行動論
❸ワーク・ライフ・バランス

［講義・ゼミ紹介］
講義は2年次の基本科目「経営学」と3・４年次の専門科目「人的資源管理」を担当しています。「経営学」の講義では多くの皆さんが卒業後に所属することになる企業組織内の人々の相互作用の中で起こる現象を捉えるとともに、それぞれの現象に対してどのような管理がなされているのかを学びます。「人的資源管理」ではヒトという経営資源が企業組織のなかでどのように管理されているのか、また、ダイバーシティ・マネジメントやワーク・ライフ・バランスといった現代的なトピックスについても学びます。
演習では人的資源管理論に加えて組織行動論といった隣接する学問分野の基礎を固め、グループ研究を通じて研究方法を学び、そして4年次には卒業論文の執筆に取り組んでいただきます。

丸田 起大
MARUTA Okihiro

管理会計

［研究テーマ］
❶アメーバ経営
❷バランス・スコアカード
❸原価企画

［講義・ゼミ紹介］
講義は「管理会計」を担当しています。民間企業や公務員への就職、公認会計士資格取得やビジネススクール進学など、将来みなさんがどのような進路に進むことになっても、会計学の知識はとても役に立ちます。不況に強い会社とそうでない会社の違いは？ 儲かっている商品とそうでない商品を見分ける方法は？ お客さんに喜んでもらうためにどこまで値下げできるか？ 今月の予算と実績に差が出てしまった原因は？などの具体的な場面をイメージしながら、会社をうまく経営していくために必要な予算管理やコスト・マネジメントなどの知識を学びます。ゼミでは、管理会計、原価計算、および経営分析などを中心とした会計学をテーマにしています。学んだことを実践するために学園祭に出店して起業体験します。また力試しのために各種資格試験の計算問題に挑戦したり、身近な会社を対面やオンラインで訪問して実務のお話を聞き、レポートや卒業論文にまとめて発表会を開催したりしながら、会計学の基礎的な理論と実践的な知識を身に付けていきます。

大石 桂一
OISHI Keiichi

企業会計

［研究テーマ］
❶アメリカの会計規制
❷会計規制の国際比較
❸PFIの会計

［講義・ゼミ紹介］
私が担当している主な講義は「会計学Ⅱ」と「企業会計」です。2年次生向けの「会計学Ⅱ」では会計学の基本を学びます。3・4年次生向けの「企業会計」は会計学の応用編ですが、決算書の読み方、会計数値をもとにした財務分析、会計学の理論などを学習します。
ゼミのテーマは「会計を使いこなす！」です。理論やルールの学習だけでなく、実際にプレーすることが大事なのです。具体的な題材は参加者が自主的に決定するというのが大石ゼミの原則で、実際の企業の財務諸表分析、経営戦略分析、企業価値評価など、これまで様々なことを行ってきました。こうしたゼミでの学習を通じて、企業会計と経営に関する理解を深めることができるだけでなく、プレゼンテーション＆ディスカッションの力も身に付けることができます。また、公認会計士や税理士を目指す学生も多く、お互いに切磋琢磨しています。

潮﨑 智美
SHIOSAKI Tomomi

財務会計

［研究テーマ］
❶国際基準の導入に伴う大陸型会計制度の変容
❷会計制度・実務の国際比較
❸グローバルな会計基準設定

［講義・ゼミ紹介］
「英語」、「パソコン」に次いで「会計（アカウンティング）」が、現代ビジネス・パーソンの三種の神器として挙げられたり、その知識やスキルを使いこなせるかどうかによって生じる機会、待遇、貧富の格差が「アカウンティング・デバイト」と呼ばれたりするなど、会計の知識やスキルの必要性はビジネス界において広く認識されています。そして、企業会計の知識やスキルは、ビジネス界だけでなく、家計や官庁会計にも援用されてきています。
私は、「財務会計」の授業を担当しています。この授業では、経済活動を行う主体である企業が、その経済的取引をどのように認識、測定し、そこで得たデータをどのように加工処理し、株主や債権者などの企業外部の利害関係者に対してどのように報告をするかを学びます。ゼミでは、インターネットやデータベースなど使って収集した会計情報を分析する「企業分析」を実践します。このように、会計学の知識やスキルを習得することを通じて、学生のみなさんが経済学部を卒業したあと、それらを駆使してグローバルあるいはローカルな場で活躍できるような総合的な力を育成することを目標としています。

小津 稚加子
OZU Chikako

国際会計

［研究テーマ］
❶会計基準の国際的統合
❷財務諸表の分析
❸エマージング・エコノミーの会計

［講義・ゼミ紹介］
「会計学Ⅱ」（2年次）では、企業が行うさまざまな活動（商品の仕入・販売、設備投資、資金の管理と運用）を財務（カネの流れ）に注目して理解します。基礎理論を学び、計算問題を解き、知識を自分のものにします。「国際会計」（3年次）では、グローバルな資本市場で活躍する企業に焦点をあてます。上場企業は国際的に資金調達をするので、これに対応して資本市場でのルールも国際的にひとつにしようとする動きがありますが、企業の実務・慣習・制度や背後にある考え方に違いがあるため容易な作業ではありません。このような動きを理論的に掘り下げつつ、実在する企業の財務報告の例を取り上げて理解していきます。
「ゼミ」（3、4年次）では、財務会計と経営分析をより深く学習します。最初に財務会計の基本書を丁寧に読み、次に財務諸表を使い、理論と実態をバランスよく学習します。グループ学習が基本ですので、先輩と後輩が一緒に学びあう場となっています。

儲 梅芬
CHU Meifen

外国書講読（日本語経済）

［研究テーマ］
❶非線形モデル分析および応用
❷カーネル分析および金融データへの応用
❸マルチフラクタル性分析および金融市場への応用

［講義・ゼミ紹介］
外国人留学生を対象とする「外国書講読（日本語経済）」は、経済学部の留学生担当教員が行います。留学生の日本語能力の向上と日本経済に対する理解の伸展が主たる目的です。前（春）学期と後（秋）学期にそれぞれ開講し、前期では世界的に著名な経済学者の日本経済に関する英語文献を使い、後期では英文記事を用い、日本語で解釈・議論を行い、日本経済および世界経済に対する理解を深めます。可能な限り議論する時間を設けて発表能力を高めるとともに、レポート提出とその添削を通じて書く能力の向上を目的としています。また、企業・工場訪問の機会も設けています。外国で生活し、単位修得・卒業を目指して勉学に励んでいる留学生をサポートする授業です。「留学生」という同じ境遇にある学生同士が集う場所として、リラックスして参加してほしいと思っています。

九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

三浦　功
MIURA Isao

ミクロ経済分析

［研究テーマ］
❶開発経済に関するミクロ分析
❷独占禁止法と競争政策
❸医療経済に関する理論的研究

［講義・ゼミ紹介］
2年次生で学ぶ「ミクロ経済学Ⅰ,Ⅱ」の講義では、消費者や生産者の行動を分析することにより市場での取引の効率性について検討します。その際、数式により表された簡単な理論モデルを用いながら、講義が行われます。3、４年次生で学ぶ「公共経済学」の講義では、民間部門や市場取引を補完するための公共部門の役割について説明します。
3・4年次ゼミの「経済工学演習」は、近年、医療経済学の分野から、演習テーマを選び、ゼミ生による報告を中心に行っています。時には、専門的分野に関して、教員とゼミ生あるいはゼミ生同士の知的格闘（？）が行われることもありますが、他方ゼミコンパは学問を離れ、教員とゼミ生が互いに胸襟を開き、本音で語り合える癒しの場として、定着しています。

藤田 敏之
FUJITA Toshiyuki

経済モデル解析

［研究テーマ］
❶地球環境対策の数理モデルによる分析
❷国際環境協定の自己拘束性に関するゲーム理論的分析
❸環境政策における不確実性と不可逆性

［講義・ゼミ紹介］
3年次で学ぶ「環境経済学」においては、経済学部生が1・2年次で学んだ経済学の理論、手法がどのように応用されているかを中心に環境経済学の基本的な内容を概説します。ゼミでは理論に重点をおきつつ環境問題を経済学的に分析する手法を学んでいきます。ゼミは2年間で完結しますが、1年間で受講を終えても構いません。3年次ゼミでは教科書の輪読を行います。3年次ゼミの内容は上述の講義「環境経済学」の内容とリンクしているので、ゼミ受講者は「環境経済学」もあわせて受講すると理解がよりいっそう深められるでしょう。4年次ゼミでは3年次の学習を踏まえて環境政策に関する学術論文を読み、専門的な分野にふみこんで学習します。3・4年次ゼミは合同で行う予定です。年度末には受講者全員にゼミで学んだ内容についてのレポートを書いてもらいます。すべての受講者が卒業時に胸を張って環境経済学を修めたと言えるようなレベルに達することを目指し、そのサポートをします。意欲ある学生の参加をお待ちしています。

池下 研一郎
IKESHITA Kenichiro

マクロ経済分析

［研究テーマ］
❶知的財産保護政策と経済成長
❷自動化の技術革新に関するマクロ経済分析
❸児童労働の発生メカニズムとその抑止政策に関する理論研究

［講義・ゼミ紹介］
3年次に学ぶ「応用マクロ経済学」では、1、2年生の時に学んだ「ミクロ経済学」および「マクロ経済学」の知識を踏まえてより専門的な内容について学びます。またゼミでは、少人数という環境で、標準的なマクロ経済学を中心にして様々なトピックスを学びます。特にゼミでは単にマクロ経済学の理論を学ぶだけではなく、その理論が現実のマクロ経済現象を説明する上でどのように役立つのかということを意識しながら学習を進めていきます。マクロ経済学を学ぶことで、社会や経済に関する体系的な見方を身に着けることができると同時に、「マクロ経済学でこんなことが説明できるのか！」という体験もすることができるでしょう。またゼミは少人数ということもあり、発表の準備や議論を行うことは大変ですが、その分だけ、他の講義では得られない密度の濃い学びを体験できます。大学で経済学に対する専門的な知識をつけておくことは、皆さんが社会人になった後で必ず役立つはずです。

山崎 大輔
YAMAZAKI Daisuke

計量経済学

［研究テーマ］
❶時系列モデルにおける構造変化に関する研究
❷パネルデータ分析における統計理論に関する研究

［講義・ゼミ紹介］
2年次生向けの「基礎計量経済学Ⅱ」では、経済データを用いた実証分析を行う上で重要なトピック・分析手法を学びます。なお、講義においては、統計手法のみならず、さまざまな分析例を通して、経済データを用いた実証分析の行い方についても学んでいきます。また、3・4年次生向けの「上級計量経済学」では、より高度な計量経済学の手法などを学びます。
本ゼミでは、統計学・計量経済学の手法を学び、各自で決めたテーマについてのデータ分析を行います。ゼミでは、統計学・計量経済学のテキストの輪読と、統計ソフト「R」を用いた実習を行います。テキストの輪読と実習を通して、様々なデータを用いた分析の方法や、分析して得られた結果を解釈する方法を学びます。その後、ゼミ論文に取り組みます。ゼミ論文のテーマを決めた後に、データの収集・統計分析を行い、得られた結果をゼミ論文にまとめます。

瀧本 太郎
TAKIMOTO Taro

マクロ数量分析

［研究テーマ］
❶時系列分析のマクロ経済分析への応用
❷非定常時系列モデルの統計的推測
❸一方向因果性検定のマクロ経済分析への応用

［講義・ゼミ紹介］
本ゼミでは、経済・経営データを用いながら分析を行っています。例えば、七隈線の価値がどれくらいあるのかを、七隈線の建設によりどれだけ便利になったかデータ（街の中心部までの移動時間がどれくらい短縮されたかなど）で測定し、土地の価格データなどと組み合わせて分析しています。また、過去の株価データから将来の株価を予想することができるのかどうかを、世界の主要な株価データに基づき分析しています。他には、POSデータを使用して野菜ジュース市場における各会社のマーケットシェア（各会社の商品が占める割合）を予測することや、緑茶の各商品を個人がどのようにグループ分けしているか（A社のお茶とB社のお茶は似ているが、C社のお茶は違うなど）のアンケート調査を行っています。テーマ自体はみなさんが自由に決めて、分析に必要な道具をゼミで修得しながら活発な議論を行い、最終的には卒業論文としてまとめることを目指しています。分析には無料の分析ソフトRを利用しています。さぁ、一緒にデータ分析をしてみませんか？

村尾 徹士
MURAO Tetsushi

現代経済学

［研究テーマ］
❶数値計算経済学
（Computational Economics）
❷企業・産業のシミュレーション分析

［講義・ゼミ紹介］
私は主に「マクロ経済学」の講義を担当しています。マクロ経済学とは、景気循環や経済成長といった一国全体にかかわる経済現象を分析する経済学の一分野です。マクロ経済学の特徴は、様々な種類の市場を別個に分析するのではなく一括して考察することにあります。財政政策や金融政策といったマクロ経済政策は様々な市場への波及効果を持つので、こうしたアプローチをとることによって経済全体に与えるインパクトを分析できるようになります。
ゼミのテーマは「Pythonで学ぶ機械学習」です。内容は大きく分けて2つのパートから構成されています。前半のパートでは、Python言語の文法および科学技術計算で用いられる代表的な数値計算手法について学んでいます。後半の機械学習のパートでは、強化学習と深層学習の基礎を1年ずつ学んでいます。ゼミの学習目標は、強化学習や深層学習に関して、理論の初歩的な部分を理解すること、および基本的なアルゴリズムを自力で実装できるようになることです。

宮﨑 毅
MIYAZAKI Takeshi

財政分析

［研究テーマ］
❶地方政府の合併と政府行動に関する実証分析
❷所得税が再配分や効率性に及ぼす影響の実証分析
❸震災と政府行動の経済分析

［講義・ゼミ紹介］
消費税増税、社会保障制度の改革、財政赤字の拡大など、財政に関する様々な問題がニュースなどで取り上げられていますが、実は財政の問題を間違って理解している人が多くいます。3、4年生用の専門科目では、こうした財政に関連する問題を学習する「財政」などを担当します。政府の役割や財政赤字、社会保障、税制などを、現実や制度、理論の面から総合的に学習します。また、学部のゼミである「経済工学演習」では「財政と地方財政」をテーマとし、理論と実証における経済学の分析ツールを用いて、国の財政や地方財政、税制に関する問題を分析・議論します。テキストの輪読や研究報告、卒業論文報告などを行うほか、懇親会やゼミ合宿を通じて勉強以外でも交流を深めていきます。最終的には、財政や地方財政の問題を経済学的に議論できるようになってもらいたいと考えています。

三輪 宏太郎
MIWA Kotaro

金融

［研究テーマ］
❶資産価格の実証分析
❷マーケット・マイクロストラクチャー
❸投資家心理と株価形成

［講義・ゼミ紹介］
ファイナンス、特に証券投資論の分野に重きを置いて講義します。株式、債券などを含む様々な金融資産の仕組み、どのように投資を行うべきか（最適資産配分）、その結果、各金融資産はどのように価格付けされるか・されるべきかを、学術・実務双方の側面から学びます。
ゼミでは、証券投資論に密接に関連する、行動ファイナンス、そして、実証ファイナンスの手法について学びます。テキストを論読し、様々なケースに関して、調査・議論していただきます。また、株式データ・財務データを使った検証を通して、人間の心理がいかに投資行動・価格形成に影響を与えるのか理解を深めていただきます。

室賀 貴穂
MUROGA Kiho

労働経済学

［研究テーマ］
❶政策変更と時間配分に関する実証分析
❷技術革新と労働市場に関する実証分析
❸女性活躍の方法に関する経済実験

［講義・ゼミ紹介］
少子高齢化が進む中、私たちは労働市場に関する多くの問題を抱えています。例えば、労働力人口の減少に伴い、移民の受け入れ政策や女性の就業促進政策が議論されていますが、移民を受け入れると労働市場にはどのような変化が起きるでしょうか。そもそも女性の就業を阻んでいる原因は何でしょうか。
労働経済学では、労働参加・高齢化・教育・結婚等の私たちの生活に密接に関わるテーマを理論と実証の側面から検証します。その際に、1・2年次に学ぶ「ミクロ経済学」や「計量経済学」の知識を使用し、現実の諸問題を論理的に議論します。
ゼミでは、専門書や論文を輪読し、労働経済学に関わるトピックについて討論を行います。また、具体的な実証分析手法を学び、因果推論について理解を深めます。懇親会やゼミ合宿を通じた学生同士の交流も積極的に行っていきたいと思います。意欲溢れるみなさんと学べることを楽しみにしています。

浦川 邦夫
URAKAWA Kunio

福祉政策

［研究テーマ］
❶税制・社会保障制度の政策効果に関する実証分析
❷主観的厚生の社会経済要因、地域要因、制度要因の分析
❸分配・再分配の価値判断に関する実験的アプローチ

［講義・ゼミ紹介］
私のゼミでは公的年金、医療・介護、家族政策、生活保護といった政府の社会保障政策や高等教育などの教育政策について、私やゼミ生が持ち寄った文献をもとに学習しています。少子高齢化が進行し、社会保障や教育にかかる費用が上昇するなかで、国民の多くが現行の諸制度に対して不安を抱くようになっています。2010年代には生活保護を受ける人が200万人を突破し、現在、GDP第三位の経済力を有する日本にも貧困の問題が広がっています。人々が安心して暮らせる社会を考えるうえで、日本や諸外国の社会保障制度、あるいは教育制度の様々な課題について学ぶことは、とても有用です。ぜひ、我々と一緒に学んでみませんか。ゼミでは、その他に今井耕介『社会科学のためのデータ分析入門』（岩波書店）、ハイルブローナー『入門経済思想史』（ちくま学芸文庫）などの書籍を通じて、計量分析の基礎や代表的な経済学説について学ぶ機会を設けています。

葉　聰明
YEH Tsung-ming

企業経済分析

［研究テーマ］
❶企業合併買収（M&A）や買収防衛策
❷企業統治や株主アクティズム
❸金融リテラシーと意思決定の関係

［講義・ゼミ紹介］
3・4年次対象の「企業経済学」の講義を担当しています。講義では現代企業はなぜ株主の利益の最大化を目的とするのか、また、そのための投資活動や統治体制はどのように考えるべきなのか、といった内容について学んでいきます。特に企業投資活動としての合併買収（M&A）はどのように企業価値を向上（あるいは毀損）させるのかについて、経済理論に基づきながら、国内外の事例を紹介します。また、取締役会の構成や機関投資家による介入、給与報酬の設計等といった統治体制はどのように株主の利益に影響を及ぼすのか、理論と国内外の実証結果を学びます。ゼミでも、以上のテーマを含め、企業のビジネス活動について古典経済学および行動経済学のアプローチから経済分析を行い、その企業価値への影響については実際のデータを用いて検証していきます。これから研究者を目指す学生にとっても、企業で働く学生にとっても、企業の経済活動を分析的な目で見る能力が身につけられることを目指します。

内田 交謹
UCHIDA Konari

企業金融

［研究テーマ］
❶企業金融の実証分析
❷コーポレート・ガバナンスの実証分析
❸CSRと金融・資本市場

［講義・ゼミ紹介］
私の講義では、企業金融について学習します。企業は株主から資金を調達し、そのお金で工場建設等の投資を行います。工場が製造した製品が売れれば企業にお金が入りますが、このお金は最終的には配当として株主に還元されます。これらの財務活動がうまく行かないと、株価が下落し、株主から経営介入されるor買収対象となります。では、どのような財務活動を行えば、株価が上昇するのでしょうか？ これが企業金融のテーマです。
ゼミでも 同様の問題について分析しますが、講義と異なり、各学生が勉強した知識と現実の企業データを使って、どのような財務活動が株価を高めるかを検証していきます。目標は、企業と株価に関するニュースについて、プロの目から意見を言えるようになることです。ゼミ・コンパやスポーツ大会等を通じて学生同士が親交を深めながら、本当の意味で「使える」知識を身に付けていく。そんなゼミを理想としています。

堀　宣昭
HORI Nobuaki

産業組織

［研究テーマ］
❶文化と制度の共進化の経済理論モデル
❷宗教とリベラリズムの政治経済学
❸工業化と脱工業化の社会的影響

［講義・ゼミ紹介］
経済学を学ぶことの意義は、特定の分野に限らず、一見複雑な様々な社会現象の背後にある本質的なメカニズムを、経済学の基本的な考え方に沿って見通せるようになることです。3・4年生向けの「応用ミクロ経済学」では、ミクロ経済学の比較的新しいトピックを学び、経済学の応用可能性の広さを感じてもらいます。
ゼミでは、最近の私の研究に沿って、文化や制度といったこれまで経済学があまり顧みてこなかった分野に、最新の経済学がどのように取り組んでいるのかを学んでいます。市場経済や民主主義が安定的に機能するための土台として、その社会で共有される価値観や文化が重要となります。まず、ゲーム理論など基礎的なミクロ経済理論の理解を確実にしたあと、文化や制度とその変化といった曖昧なものの研究に、最近の経済理論モデル分析や歴史データ分析の手法がどのように応用されているのかを学びます。ただし、ゼミのかなりの時間は広く問題意識を共有する文化人類学や政治学、歴史学などの文献講読に費やすことにしており、「読む」ことにこだわったゼミを目指しています。

宮澤 健介
MIYAZAWA Kensuke

比較経済政策

［研究テーマ］
❶日本・世界経済のマクロ分析
❷介護政策と家族のあり方
❸長期経済発展と人口動態

［講義・ゼミ紹介］
主に3・4年生を対象とした「経済政策」の講義を行っています。現代の資本主義社会では市場において各経済主体が自由に活動することが基本になっていますが、市場は常に効率的に機能するとは限りませんし、不平等な結果になってしまうこともあります。こうした問題に対して、ミクロ・マクロ経済学を用いて政府が行うべき政策を分析していきます。
ゼミでは長期的な経済発展について学んでいます。産業革命以降、私たちの社会・経済・生活はそれまでのものと全く異なるものになっています。産業革命以前の社会とはどのようなものか、産業革命はなぜ起きたのか、現在の経済水準・成長は維持可能なのかといった点について計量経済史の観点から検討しています。

大西 俊郎
ONISHI Toshio

数理統計学

［研究テーマ］
❶ベイズ予測における双対性
❷モデル平均およびモデル選択
❸ベイズ型一般化線型モデル

［講義・ゼミ紹介］
例として株式投資を考えてみましょう。株価は様々な要因により日々変動します。どの銘柄に投資するのがリスクを小さくし、かつ、収益を大きくできるのでしょうか？ 不確実性の下で適切な意思決定を行うにはどうすればよいのでしょうか？
この問題に対する1つの回答を与えるのが統計学です。過去のデータを分析し、将来を予測する方法論を科学する学問分野です。担当講義科目の「数理統計学Ⅰ・Ⅱ」では、(1) 基礎概念と数理的基礎を学び、(2) 代表的なデータ分析手法を学びます。ソフトウェアを使ってデータ分析が行えるようになることが目標です。
ゼミでは、近年注目を集めているベイズ統計学を学びます。IT技術の進展は複雑なモデルを使ったデータ分析の必要性を増大させました。複雑なモデルに基づくデータ分析で威力を発揮するのがベイズ統計学なのです。ちなみにベイズとは18世紀の数学者Thomas Bayesに由来します。

北原 知就
KITAHARA Tomonari

数理計画

［研究テーマ］
❶線形計画問題に対するアルゴリズムの理論的解析
❷経済学における問題に対する数理計画法によるアプローチ
❸数理計画法の現実問題への応用

［講義・ゼミ紹介］
学部生向けの講義では、主に「数理計画法」を担当します。現実の意思決定問題を数学的にモデル化し、得られたモデルをアルゴリズムを用いて解くことによって、効率的な意思決定を目指す方法論です。数理計画法が役立つ分野は多岐にわたり、講義では様々な数理計画モデルやアルゴリズムを勉強します。
ゼミでは、数理計画法に関する文献の講読や、実際に意思決定問題を数理計画法を用いて解決することなどを通して、
・数理的問題解決能力
・コミュニケーション能力
・プログラミング能力
・英語力
の４つをバランスよく伸ばし、幅広い分野で活躍できる人材になってもらうことを目指します。少しでも数理計画法に興味を持った方は、ぜひ当ゼミをご検討ください。

小室 理恵
KOMURO Rie

経済数学

［研究テーマ］
❶数理モデリング
❷多目的遺伝的アルゴリズム

［講義・ゼミ紹介］
経済学を勉強する上で、数学は「必要不可欠な道具」と言っても言い過ぎではないでしょう。その道具としての数学を学ぶための「経済数学」という講義を担当しています。「経済学分野で必要な数学」に絞った上で、できるだけ広範囲に渡る内容を取り上げます。
ゼミでは、数理モデリング、特に、「時間によって変化する現象を微分方程式で表す」ことを学んでいます。物理学や生物学の現象を表す際、微分方程式は非常に有効なツールですが、経済学の分野においても、微分方程式を用いて説明のできる現象が様々あります。微分方程式を使って数理モデルを構築（数理モデル化）し、それを解くだけでなく、得られた解がどのようにふるまうのかを考えます。まずは微分方程式による数理モデルに慣れることを目標に、経済学に限定せず、他分野での応用も紹介しながら教科書を読み進めます。その後、コンピュータを用いた解法や分析方法を学習します。

松本 浩一
MATSUMOTO Koichi

確率モデル解析

［研究テーマ］
❶確率論のファイナンスへの応用（数理ファイナンス、金融工学）
❷デリバティブの価格付け
❸リスク測度

［講義・ゼミ紹介］
松本ゼミは数理ファイナンスや金融工学の学習を通じて、社会で役立つ知識と能力を身につけることを目指すゼミです。金融工学の専門知識を生かした職務を志望する人、研究者を目指す人、数学の社会への応用に興味のある人などが参加しています。
ゼミで学ぶ数理ファイナンス、金融工学は、金融機関における投資、リスク管理、商品開発などのために発展してきた学問です。最近では、天候、地震、不動産、企業経営に伴う事業リスク等も研究対象となっており、様々な分野で応用されています。
ゼミは、専門書を分担して担当者が説明し、質疑応答を行うセミナー形式で行います。レベル別に分かれ、少人数で行うのが特徴で、全員がしっかりと予習して参加することが求められます。先端的なファイナンス理論には確率微分方程式などの高度な数学が必要となりますので、数学とファイナンスの双方の専門知識をバランスよく、体系的に積み上げるような学習を行っています。

伊豆永 洋一
IZUNAGA Yoichi

情報管理

［研究テーマ］
❶クラスタリングに対するモデリングとアルゴリズム設計
❷社会科学や工学における諸問題に対する数理的アプローチ
❸オペレーションズ・リサーチ

［講義・ゼミ紹介］
近年、機械学習に代表されるように大量の情報を収集・認識し活用する技術が目覚ましい発展を遂げています。私の学部担当講義「情報システム」では、機械学習の技術（特に教師あり学習と教師なし学習）の背後にある統計的モデリング手法やアルゴリズムの基礎について学びます。

3年次のゼミでは、専門書の輪講とディスカッションを通して機械学習（情報の解析と利活用の手法）と数理最適化（意思決定の手法）の基礎について学びながら、並行してコンピュータを用いた演習を行います。4年次のゼミでは、各自（あるいは数人のグループ）で興味のあるテーマを設定し3年次に学んだ知識を用いて数理的な立場から検討し解決を試みます。対象とするテーマについては、特定の領域に限定せず社会科学や工学などの幅広い領域から設定してもらえればと思います。一緒に考えていきましょう。

古川 哲也
FURUKAWA Tetsuya

情報解析

［研究テーマ］
❶データベース理論
❷データモデル
❸データ分析手法

［講義・ゼミ紹介］
基本科目の情報処理ⅠⅡでは、表計算ソフトを用いて経済・経営分野のデータを処理するための手法やプログラミングの基礎を学びます。3年次で学ぶ「データ工学」の講義では、情報技術を用いてデータを利用するために、様々な形式のデータがコンピュータ内でどのように蓄えられているのかを理解し、大量のデータを蓄積・管理して利用するための基本的な技術であるデータベースの考え方とデータマイニングによるデータ分析などのデータ利用に関する技術動向について学びます。経済工学演習（ゼミ）では、情報通信技術を有効に利用するためにその基本的な知識を得るとともに、大量のデータを収集して解析する過程を幅広く検討します。また、発表資料の作成と配布、プレゼンテーション、質疑や意見交換などに情報機器を活用し、コンピュータを利用するための感覚を身につけます。

[column]

ビジネスの最先端の課題について学ぶ

九州大学経済学府（＝大学院）には、2003年に「九州大学ビジネス・スクール（通称QBS）」が開設され、研究者の教員とともにビジネス界で豊富な実務経験を有する教員が、MBA（経営修士）を目指す高度専門職業人の養成を行っています。経済学部（経済・経営学科、経済工学科）では、このビジネス・スクール担当教員が交代で講義を担当しています。これらの講義により、産業界・金融界の最先端の課題について豊富な事例を通じて学ぶことができます。

ここでは、ビジネス・スクール担当教員による学部講義「国際ビジネス」について紹介しましょう。

九州大学
ビジネス・スクール（QBS）▶
ホームページ
http://qbs.kyushu-u.ac.jp/

講義名「国際ビジネス」

担当教員
星野 裕志、小城 武彦

小城 武彦 教授（2021年度担当）

この学部生を対象とした「国際ビジネス」は、主に社会人向けの専門職大学院である九州大学ビジネス・スクール（QBS）で教鞭をとるビジネス経験のある教員が交代で担当しています。

企業が国境を越えて事業を行うことが当たり前の時代になりました。この授業では、数多くの具体的事例を通じて、ビジネスのリアリティを感じながら、ビジネスの本質やビジネスの枠組み・理論などを広く学んでいただくことを目的としています。

本学卒業後、ビジネスの前線で活躍することを目指す学生の皆さんの受講をお待ちしています。

卒業生・修了生からのメッセージ

九州大学経済学部出身のたくさんの先輩たちが、
産・官・学の世界で活躍されています。
大学での学び、生活、交友関係などが、
現在の人生や仕事にどのように
繋がっているのかを中心に、
８名の先輩に語ってもらいました。

産

中川 彰子 NAKAGAWA Akiko

九州大学 経済学部 卒業（2007年3月）

就職先
住友商事株式会社
欧州コーポレート部門（ロンドン）

「経済」に一切関わらずに生きていくことはできない、でも詳しいことはよく分からない。数ある文系学部から私が経済学部を志した理由です。では卒業した今は「経済」を隅々まで理解できているかというと、否です。学生生活で学んだ最も重要なことは経済そのものというよりも、突き詰めて考えるということ、思考の手助けとなる情報の探し方・使い方、意見の組み立て方だと感じています。

これらは主に3年次からのゼミ活動で学びました。ゼミの指導教員だった篠﨑先生は「世の中の森羅万象にsearchをかけ、researchして物事の本質を見極める力が学生にとっても社会人にとっても最も重要」と語ったその言葉通り、自分で思考し結論に辿りつく過程を重視し、多くを教えてくださいました。そんな先生の元に集ったメンバーの熱量は圧倒的で、互いに刺激を受け切磋琢磨できる環境で過ごした2年間は今でも私の宝物です。

私は卒業以来住友商事㈱で勤務していますが、当時の私にとって当社への入社は大きな決断でした。先生の「思いっきり走れるところで頑張ってごらん。まだまだ知らないことはたくさんあるはず」との言葉に背中を押され、飛び込んで約10年、2017年6月から私は人事担当としてロンドンで勤務しています。欧州をはじめ、中東、アフリカ、CIS地域で働く住友商事グループの方々が業務に専念して業績を上げ、社会にプラスのインパクトを与えられるように私にできることは何か、これを突き詰め、実行していくことが私のミッションです。

簡単に結論を出そうとしていないか？引用している情報は確かなものか？先生の問いかけは仕事にも通じます。思考の礎をつくってくれた学生生活に感謝して、これからも頑張っていきたいと思います。

産

安藤 ななみ ANDO Nanami

九州大学 経済学部 卒業（2018年3月）

就職先
大和証券株式会社

経済学部を志す皆さんの大学生活がより実りあるものになるように私の経験をお話ししたいと思います。

まず3年生からは国際金融論を扱う岩田先生のゼミに所属しました。日本という枠組みを超え、世界を視野に幅広い知見を身に着けたいという願望が私の中にあったのです。ゼミでは国際金融論の基礎を学びつつ、ゼミ論文の執筆にあたっては仮想通貨について研究しました。皆さんからすると、論文と聞くととても難しそうにみえるかもしれませんが、同じゼミ生たちと切磋琢磨し、議論を重ねて自身の主張を形にしていくプロセスを経験することは大きな財産となります。九大には優秀な仲間や先輩がたくさんいるのでぜひ周りから貪欲に多くのことを吸収し、そして発信してください。

また、経済学部には学生がグローバルに多様な経験を積むことができるように多くのプログラムが提供されています。私の場合、教育の質向上プログラム（EEP）に参加し、潮﨑先生のご指導の下、混乱するEU情勢の中でECBをはじめとするヨーロッパの金融機関、企業の動きを実際に目の当たりにすることができました。さらに、中国人民大学のサマースクールに参加し、北京において世界各国から集まった講師、学生たちと共に学び、議論する機会を得ました。どちらのプログラムにおいても私の国際感覚を養うことにつながり、グローバルな人脈を得る貴重な機会となりました。

経済学部での4年間は私にとって新たな挑戦の連続でした。私にとって幸運であったのは挑戦する勇気さえあればその機会を大学が、先生方が、あるいは友達が提供してくれる環境にあったことです。皆さんの中には講義を受ける中で意味を見いだせないと感じることもこれからあるかもしれません。しかし、すぐに何かの役に立つような実学を身に着けるだけでは日々変化する社会に対応することはできず、一見自分と無関係の内容であるような講義が意外な所で生きてきたりします。幅広く様々な講義を受け、深い教養を持ち、多くの人と交流すること、挑戦する心を大切にしてください。それができるのがここ、経済学部なのです。

産

竹内 尊紀 TAKEUCHI Takanori

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了（2018年3月）

就職先
（株）リクルート

はじめに、数ある大学の中から九州大学経済学部に少しでも興味を持っていただきありがとうございます。私が2016年3月に卒業した経済工学科は、前期の入学試験でセンター試験の点数に加えて、理科の記述試験を課さずに国語の記述試験が課されています。そして、数学（数学IIIまで試験範囲）と英語の記述試験を重視した点数配分になっています（平成30年度現在）。

このように受験生の皆様にとって入試科目が特徴的である理由は、入学後の学習に直結しているからだと私は考えています。数学は、経済の動きを数式で記述することを試みる「理論」や、統計学とデータを用いて経済の動きの検証を試みる「実証分析」で利用されています。英語は、先行研究や海外の教科書から知見を得るためや、研究内容をグローバルに発信するための論文執筆で使用する可能性があります。数学や英語を「ことば」として利用し、私たちひとりひとりが構成する「社会」を分析することに少しでもワクワクする方にとって良い学習環境であると思います。

授業や研究以外の生活にも、様々な楽しみがあります。サークル活動やアルバイトに力を入れる人もいれば、企業へのインターンシップや学生団体への参加で社会との接点を積極的に持つ人もいます。私自身も、大学での授業を中心に、6年間のサークル活動、複数企業のインターンシップ、飲食店や家庭教師のアルバイト、福岡市こどもの学びと居場所づくり事業など、多くの経験をすることができました。受験生のときとは比べ物にならない多様な方々との関わりは私にとって大きな財産となっています。

さいごに、この記事を読んでくださった受験生の方が来春に九州大学経済学部に入学してくださることを心待ちにしています。楽しい学生生活があなたを待っています。

官

玉理 早紀 TAMARI Saki

九州大学 経済学部 卒業（2016年3月）

就職先
日本銀行

九州大学で過ごした日々が、私を社会でも力強く歩んでいけるよう育ててくれたと卒業した今、実感しています。

大学時代、課外活動であるオーケストラに夢中だった私ですが、そんな私に稲妻が走ったのが学部3年次より始まるゼミ活動です。たくさんの知識を暗記して勉強していた高校までの勉強とはまた違った、「学ぶ」ということの面白さをここで知ることができたからです。私の所属したゼミでは、「学ぶ」ために必要となる、情報を集める力・正しく読み取る力や根拠に根差した理論で意見を組み立てていく力を、3年次の1年間かけ、仲間と切磋琢磨しながら学んでいきました。4年次には、各々の設定したゼミ論文のテーマについて、自らの知的好奇心を動かし、能動的に学びを深めました。研究に対して様々な視点から仲間の意見をもらい、ディスカッションする中で、より広い視野で研究を深められたという経験は、大学のゼミならではの醍醐味だったと感じています。

ゼミで培った力は現在の仕事にも活きていると思っています。大学卒業後、私は日本銀行へ入行しました。皆さんが安心してお金を使い、生活できるよう、私たちは日々幅広い業務を遂行しています。どのような業務に携わるときでも、情報を正しく理解し、他者に正しく伝える力や論理的な思考の組立て方は必要とされ、現在も仕事を通して学び続けているところです。

大学では多くの出会いがあり、その1つ1つがかけがえのないものです。就職活動において悩んでいた私へ、「正しい道を選択するのではなく、選択した道を正しくしていく」大切さをゼミの担当教授であった篠崎先生は教えてくださいました。この言葉は今でも私を支える言葉です。九州大学での学びや出会いを糧とし、これからも社会に貢献していく道を歩んでいくために努力していきたいと思います。是非、皆さんも九州大学での学び、出会いを通して、皆さんの道を力強く歩んでいってください。

官

末永 雄大 SUENAGA Yudai

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了（2014年3月）

就職先
長崎県庁

私は、2008年に九州大学経済学部に入学し、経済学の基礎を学んだ後、学部3年次からは情報経済のゼミに入りました。ゼミでは、ゼミ生とのディスカッションや論文作成の過程で、それまでの暗記型の受験勉強ではない、根拠を明確にしながら、主体的に考えていくプロセスを学びました。さらに、情報化により劇的な変化を遂げる世界経済を、経済学の視点から紐解くことの面白さに興味を感じ、学部・学府一貫プログラムを利用して九州大学経済学府に進学し、さらに研究を深めました。

私は九州大学経済学部・経済学府で、経済学の基礎や統計分析の手法等多くのことを学びましたが、特に印象に残ったことが2つあります。1つ目は、経済学の手法を用いて、情報化によりグローバルに起きている大きな変化を考える点です。情報化で劇的に起きている社会の変化という新しい事象を、長年蓄積された経済学の考え方を応用して考える、という視点を身に着けました。2つ目は、根拠を明確にして、理論立てて説明する点です。物事を説明する際に、根拠・出典を明確にして、理論立てて説明することで説得力を持たせるということを学びました。九州大学で学んだ、根拠を明確にしながら、理論的に考え、相手に説明するという視点が現在の仕事でも役立っていると思います。

九州大学経済学部には、経験豊かで、多くの示唆を与えてくれる先生方、レベルの高い議論を深め合うことのできる仲間、そして、自分から興味のある課題を探し、その課題を豊富な文献・データから考えるという、能動的な「学び」をすることができる、恵まれた環境があります。私自身、九州大学経済学部・経済学府を通して、視野を大きく広げることができ、現在の仕事にも大いに活かすことができていると感じています。皆さんも是非、九州大学の恵まれた環境で学び、人脈を広げ、豊かな学生生活を送っていただけたらと思います。

土中 哲秀 HANAKA Tesshu

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了（2018年３月）

就職先
中央大学理工学部情報工学科 助教

私は、2010年に九州大学経済学部経済工学科に入学し、学部から博士までの８年間を過ごしました。ゼミ配属では、元々やりたかった経済学と数学の関係を勉強するために、数理情報講座のゼミから選ぶと決めていました。そして、恩師の小野廣隆先生（現名古屋大学大学院情報学研究科）と出会いました。小野先生は理論計算機科学やオペレーションズ・リサーチなどの情報学がご専門でしたが、ゼミ配属の前にお伺いして、経済学と情報学、そしてその背後にある数学の関係を丁寧に説明してくださり、これだと思って決めました。配属後は、グラフ（ネットワーク）と呼ばれる離散構造における重要部分構造抽出アルゴリズムの開発に取り組みました。この研究テーマは、経済学とは関係があるものの、どちらかといえば理論計算機科学に関するものでした。修士に進学するときに自身の培ってきたグラフ的視点を経済学分野に応用したいという思いが強くなり、小野先生に相談すると、経済経営学科の加河茂美先生を紹介してくださりました。加河先生は産業連関分析と呼ばれる経済分析がご専門ですが、グラフ理論などにも詳しく、実経済データのグラフ的分析に関する研究をしておられました。私は、アルゴリズムの研究をする一方で、経済ネットワーク分析に関する共同研究も始めました。同時に二つの研究を行うのは大変でしたが、博士課程の間に両分野の論文を英文誌と国際会議で発表することができました。このような経済学と情報学の両分野をつなぐ学際研究ができたのは経済工学科ならではだと思います。そして、初学者だった私を熱心に指導してくださった小野先生、加河先生には感謝の言葉もありません。

最後に、九州大学経済学部経済工学科にはこのように素晴らしい先生方がおられ、また幅広い分野をつなぐ最先端の研究を行うことができます。自分自身のやりたいことを見つけ、切り開いていってください。

江口 昌伍 EGUCHI Shogo

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了（2018年3月）

就職先
福岡大学経済学部 講師

私は2010年に九州大学経済学部に入学し、学部2年次に加河茂美先生の経済・経営学基本演習を履修した際に、環境経済学に出会いました。環境経済学とは、端的にいうと、環境問題を経済学の観点から分析する学問分野であり、「なぜ環境問題が生じるのか」、「環境問題を解決するためには何が必要か」といったことが分析対象です。私は、加河先生の演習を受ける以前は、環境経済学という存在すら知りませんでした。しかしながら、演習の時間に色々な議論に触れるにつれて、環境経済学に対する興味が高まり、3・4年次には加河先生のゼミに所属し、更にはそのまま大学院に進学するに至りました。

大学院進学後は、とにかく研究室のメンバーに恵まれました。私は、「博士後期課程に進学するからには大学教員を目指そう」と決めていたのですが、私の在学中に、加河研究室からは2名の先輩方が大学教員として就職され、お手本となる先輩方を身近に感じられたことは非常に貴重な経験でした。また、加河研究室の博士後期課程に在籍する日本人学生の数は、日本の同分野の研究室の中でもトップクラスに多く、また、在籍するほとんどの学生が査読付きの英文誌に論文を掲載しているなど、研究室の規模と質の両面において全国的にもトップレベルと言えるものでした。常に切磋琢磨しながら研究に打ち込む環境があったことは、大学教員を目指すにあたって、この上ない環境だったと思います。また、研究室のメンバー同士の仲も良く、愚痴を言い合ったり、気晴らしにみんなで遊びに行ったりと、とても楽しい研究室生活を送らせてもらいました。

まだまだ書き足りないことは多いですが、九州大学の経済学部には素晴らしい先生方に加えて、レベルの高い学生も多く、自分の可能性を広げるためのこれ以上ない環境があります。ゆっくりで構いませんので、是非、大学生活の間に将来の目標を持ち、その実現に向かって有意義な毎日を送ってください。

白新田 佳代子 SHIRONITTA Kayoko

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了（2019年3月）

就職先
福岡女子大学 講師

私は、2010年に九州大学経済学部に入学しました。学部で学んできた経済学の基礎は社会の仕組みを理解する上で非常に有効でとても興味深かったのですが、私自身はどうも「お金」に関する話は興味がないことも分かりました。そこで環境問題に興味があった私は、環境経済学の経済・経営学基本演習（加河茂美先生）を履修しました。環境経済学は、端的に言えば経済学のアプローチを使って環境問題や資源問題の仕組みを理解し解決することを目的とした研究分野です。これが私の興味・関心と合致し３・４年次も引き続き加河先生の経済・経営学演習（ゼミ）を履修し、ゼミの卒論で取り上げた研究テーマについてもっと深めていきたいと大学院進学を決めました。

大学院進学後は、将来は研究者として社会の役に立ちたいと考えていましたが、指導教官である加河先生の精力的な指導と優秀なゼミメンバーたちに大いに刺激を受けて自分の研究に打ち込むことができました。この点で私がいた研究室は研究者としての素養を身につける最良の環境だったと言えます。また、学内の先生方とはもちろん、他大学や研究機関の研究者と交流する場が設けられトップレベルの議論を経験できたことも貴重な財産です。

話は少し変わりますが、女性の大学院進学者は依然として少ない現状があります。「女性だから」という理由だけで大学院に進学しないのはもったいないです。なぜなら、大学院には男女関係なく学問を目指すものたちに開かれた質の高い研究環境が用意されているからです。また、女性だからこそ気付けることや明らかに出来ることがまだまだたくさんあります。この新しい視点がこれからの社会の問題解決において非常に重要になると、私自身信じています。

九州大学経済学部・経済学府には、自分の可能性を広げる出会いと経験が待っています。人生を豊かにする一つの選択肢として、是非、皆さんも九州大学経済学部の進学を考えてみてください。

学生生活支援

奨学金

奨学金には、現在奨学生の大半を占めている日本学生支援機構奨学制度と、地方公共団体・民間の奨学制度があります。応募者は選考のうえ奨学金が貸与又は給付されます。

（詳細は「九州大学ホームページ」の 受験生 をクリックし、「入学料・授業料・奨学金を知りたい」をクリックしてください。）

［日本学生支援機構奨学金］

種類	第一種奨学金（無利子貸与）		第二種奨学金（有利子貸与）
貸与月額	20,000円、30,000円、45,000円	20,000円、30,000円、40,000円、51,000円	20,000円～120,000円
対象学生等	学部学生（自宅通学者）	学部学生（自宅外通学者）	学部学生

授業料の免除

経済的な理由により授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる場合には、願い出により当期分の授業料の全額、半額又は4分の1の額が免除されることがあります。

（詳細は「九州大学ホームページ」の 受験生 をクリックし、「入学料・授業料・奨学金を知りたい」をクリックしてください。）

学生寮

九州大学経済学部に入学した新入生は、以下の4つの寮に申請することができます。

（詳細は「九州大学ホームページ」の 受験生 をクリックし、「キャンパスライフを知りたい」をクリックしてください。）

寄宿舎名	ドミトリー1	ドミトリー2	ドミトリー3	伊都協奏館
地区	伊都地区			
建物構造	鉄筋10階建	鉄筋10階建	鉄筋5階建	鉄筋9階建／6階建
収容数	単身室254室	単身室248室	136室（4室/1ユニット）	単身室551室※
寄宿料	18,500円/月	25,500円/月	10,000円/月	16,500円/月
共益費	4,500円/月	4,500円/月	4,500円/月	4,500円/月
光熱水費	実費	実費	9,000円/月	実費

※うち1室バリアフリー居室

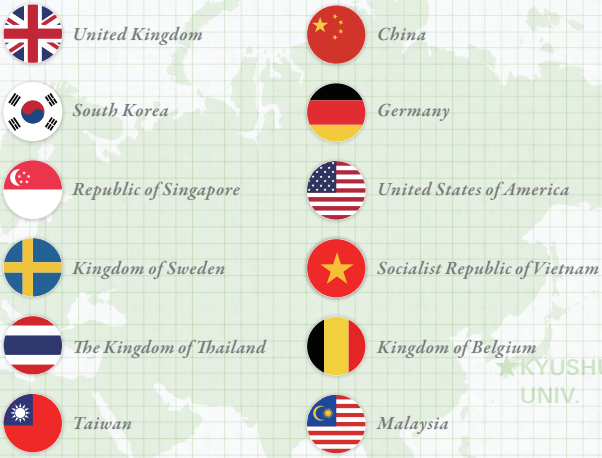
国際交流

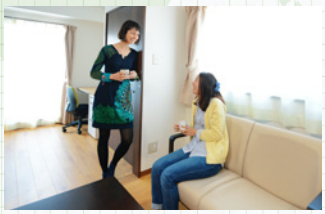
国際交流協定による外国留学

九州大学では、世界33カ国・地域の136の大学と学生交流協定を結び（2021年5月現在）、学生の海外留学を積極的に支援しています（詳細は「九州大学Webサイト」の「受験生」のなかの「各種留学プログラム」のページをご覧ください）。

こうした大学の枠組みを利用して、毎年、多くの経済学部生が世界の主要大学に、数か月から1年間程度の留学を行っています。留学先で講義や少人数クラスに出席して修得した単位の一部は、経済学部の卒業のための単位として認定されます。

最近3年間（2017～2019年）の経済学部学生による外国留学の国別人数と留学先大学名は次のとおりです。イギリス２名（ブリストル大学、ロンドン大学アジア・アフリカ学院）、韓国２名（高麗大学、梨花女子大学）、シンガポール２名（シンガポール国立大学）、スウェーデン５名（ウプサラ大学、スウェーデン王立工科大学、ストックホルム大学）、タイ１名（タマサート大学）、台湾１０名（国立台湾大学、国立政治大学）、中国４名（中国人民大学、香港中文大学、香港大学、浙江大学）、ドイツ３名（ミュンヘン工科大学）、アメリカ６名（北アリゾナ大学、サンノゼ州立大学、ジョージア大学、ベレア大学）、ベトナム１名（ベトナム国家大学ハノイ校）、ベルギー１名（レウヴェン・カトリック大学）、マレーシア１名（マラヤ大学）





修学相談支援室（SQA）

SQAでは、経済学部・学府の修学に係る相談など下記の支援をしています。どうぞお気軽にご利用ください。

◎講義の補習
◎ソフトウェアの利用
◎論文執筆支援
◎学会報告支援
◎留学生向け日本語チェック
◎日本学術振興会特別研究員（PD・DC）研修会の開催

世界各国の留学生が学ぶ九州大学経済学部

九州大学経済学部では、世界各国の留学生が日本人学生と一緒に学んでいます。2021年5月1日現在において、九州大学経済学部で学んでいる外国人留学生は21名です。その出身国別内訳は、中国（台湾）が1名、韓国が13名、中国が7名となっています。

これら学位取得を目的とした留学生のほか、海外提携校からの交換留学生も在籍しています。また、留学生向けの授業も用意されています。

［留学生担当教員の紹介］

儲　梅芬
CHU Meifen

大学院案内

九州大学経済学部卒業後の進路の1つに大学院への進学があります。九州大学大学院経済学府*では、大学院進学を促進し、進学後の勉学を円滑化するため、経済学部のカリキュラムと連続性のあるカリキュラムを導入し、また「学部ー学府一貫教育プログラム」（6-7ページ参照）を設けています。ここでは、学部卒業後の進路の一つである、大学院経済学府の二つの専攻（経済工学専攻・経済システム専攻）を紹介します**。

*九州大学では、大学院を「学府」と呼んでいます。

**主に社会人向けの専攻＝「産業マネジメント専攻（QBS九州大学ビジネススクール）」については20ページのコラムを参照。なお、経済工学専攻のカリキュラムは学部の経済工学科のカリキュラムと、また、経済システム専攻のカリキュラムは学部の経済・経営学科のカリキュラムと、それぞれ連続しています。

大学院　経済学府
経済工学専攻

最先端の経済学と工学により、諸問題を創造的に解決できる人材を育成

経済工学専攻は、経済システム解析講座、政策分析講座、数理情報講座の3大講座から構成されています。複雑化・不確実性の度合いを強めつつ進化する現代社会において、創造的な発展をにないうる高度専門研究者・専門職業人の養成が目標です。

教育・研究上の特徴は、第1に、高度な理論・計量分析の手法を開発・使用して、経済の諸問題を科学的に解明し、先端の研究領域において革新性のある研究を切り開く創造的能力を育成する点にあります。第2に、経済と政治が複雑に絡み合う経済社会において、現実的な感覚にもとづいて政策課題を設定し、分析ツールをもとに課題を研究し、その成果をフィードバックする手法を修得できることです。第3に、経済・経営問題に関する高度かつ最新の数理・情報解析の手法を開発・活用する能力を修得できることです。

経済システム解析講座では、数理的手法を用いてマクロ経済、ミクロ経済の双方の諸問題を理論、実証の両面から分析します。ミクロ経済分析、経済モデル解析、マクロ経済分析、計量経済学、マクロ数量分析などの分野から成り、いずれも、理論モデルや計量モデルをもとに現実問題の解決策を構想します。現代的な課題である医療、情報、環境、開発、景気変動等の理論的、実証的研究が展開されています。

政策分析講座では、多様な経済問題に関する政策を分析し評価するための手法を学び、新たな政策提言を行うことが課題です。中心的なテーマは、市場による調整と公的な介入をどのように調和させるか、財政、金融、雇用、福祉など経済に結びついた諸政策の役割と企業、政府及び政治のガバナンスの問題など、広範囲に及びます。

数理情報講座では、経済分析のための数学的手法、数理計画法とその関連分野、経済・経営データの解析手法、数理ファイナンス等のための確率・統計理論とその応用、情報処理・管理のためのコンピュータ技術など、数理的理論や情報処理手法の研究が精力的に進められています。

大学院　経済学府
経済システム専攻

国際的に活躍できる研究者や高度専門職業人を養成

現代の経済社会においては、世界経済、国内経済、地域経済などの多層的な経済空間、および財政、金融、産業、企業などの経済制度・経済主体が、相互に複合的に関連しつつ経済システムを構成しています。現代の経済システムは、先端的科学技術の急速な発展や、経済のグローバル化・市場経済化の進展、環境・福祉面における市場ニーズの変化などによって大きく変容しています。そのなかで、大学には、経済社会がかかえる問題に対処していける人材を育成することが求められています。

経済システム専攻は、経済システムを「現代経済分析」「世界経済分析」「産業分析」「企業分析」という4つの側面から多面的、多層的、総合的に分析し、高い専門性だけでなく、広い問題関心と鋭敏な現実感覚、複合的な分析能力を身につけ、国際的に活躍できる研究者、専門職業人の養成をめざしています。本専攻で養成する人材は、産業と技術のマネジメント分野のプロフェッショナルやアジア・ビジネスのリーダーを養成する産業マネジメント専攻（ビジネス・スクール）とは異なっています。

修士課程においては、学術研究の基礎と実践の指導を通じて、研究能力の養成を図ります。また、ビジネス界における専門知識や国際コミュニケーション能力を有する人材ニーズの高まりや、公認会計士など資格取得希望者による専門知識の修得、留学生や社会人を対象とする専門職業人教育にも対処したいと考えています。さらに博士後期課程においては、現代社会において生起する種々の問題を冷静かつ客観的に観察・分析し、それを踏まえて深く課題を探求し、問題の解決方向を見出していくための理論・方法を提示できる研究者・高度専門職業人を養成していきたいと考えています。これらは、学術分野の第一線で国際的にも活躍できる研究者、産業マネジメント専攻を修了した実践志向的な研究者、現場において研究能力を生かせる高度専門職業人（エコノミスト、リサーチャー、フィールド・ワーカー）、国際機関の第一線で活躍できる人材、高い専門知識を有する社会人などから成ります。

就職状況

[卒業生就職等状況一覧表]

業　種	平成30年度	平成31年度	令和2年度
農林業・漁業・鉱業	0	0	0
建設	4	3	4
食料品・飲料	2	4	6
繊維	1	0	0
印刷	1	0	1
化学工業	2	0	2
鉄鋼・非鉄金属	3	4	3
汎用機器	3	1	1
電子部品・デバイス	2	2	0
電気・情報通信機器	2	4	4
輸送用機器	3	4	4
その他製造業	6	1	4
電気・ガス・水道	5	2	7
情報通信	32	25	37
運輸・郵便	5	4	9

業　種	平成30年度	平成31年度	令和2年度
卸売・小売	7	2	5
金融・保険	45	63	54
不動産・物品賃貸	3	2	3
学術研究	3	0	0
宿泊・飲食	0	1	1
生活関連サービス	0	4	3
教育・学習支援	1	4	3
医療・福祉	1	1	1
複合サービス	7	4	4
その他サービス	3	8	18
公務	26	19	14
上記以外	6	14	11
小　計	173	176	199
大学院進学	13	14	14
総　計	186	190	213

卒業生が就職した主な企業・官公庁は、次のようになっています。

CTCテクノロジー
Forevision
FUNDBOOK
info cubic
JFEスチール
JR博多シティ
LIFULL
MS＆ADシステムズ
NTTデータ
NTTデータ経営研究所
NTTドコモ
PwCあらた有限責任監査法人
SBI証券
SBIホールディングス
SMBC日興証券
SOLIZE Engineering
WinGrow
アウトソーシングテクノロジー
アクセンチュア
味の素
阿波銀行
いい生活
伊藤忠丸紅鉄鋼
伊藤忠商事
荏原製作所
オービック
オープンハウス
オープンハウス・アーキテクト
大分県
岡山県
オムロンヘルスケア
花王プロフェッショナル・サービス
神奈川県
嘉麻市
キーエンス
北九州市
九州大学
九州電力
九州リースサービス
九州旅客鉄道
キリンホールディングス
空研工業
熊本市
ケンショー
コカ・コーラ ボトラーズジャパン
国際協力銀行
西部ガス
サザンクロスシステムズ
さなる九州
シーユーシー
ジール
ジェーシービー
シオステクノロジー
シンプレクス
住友電気工業
スリーエイ・システム
駿河台学園
税理士法人創経
税理士法人山田アンドパートナーズ
ゼウス・エンタープライズ
セプテーニ・ホールディングス
全国大学生協連
ソフトバンク
第一交通産業
ダイショー
大成建設
ダイレクト出版
大和証券
ディー・エヌ・エー
ティーシートレーディング
テクノ工営
デジタルホールディングス
デロイトトーマツコンサルティング合同会社
デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社
電源開発
電通国際情報サービス
東京海上日動システムズ
東京海上日動火災保険
トヨタカスタマイジング＆ディベロップメント
トヨタ自動車
トヨタ自動車九州
長崎県
西日本シティ銀行
西日本旅客鉄道
ニチレイ
日本銀行
日本政策金融公庫
日本政策投資銀行
日本通運
日本郵便
ネットマーケティング
農林中央金庫
野村證券
野村不動産
博報堂
バルセロナ
東日本電信電話
ビジョナル
富国生命保険相互会社
福岡銀行
福岡国税局
福岡市
福岡地方裁判所
福岡労働局
富士エンジニアリングサービス
富士ソフト
富士通
富士通ビー・エス・シー
藤原設計
防衛省
マイクロアド
前田建設工業
マネーフォワード
豆蔵
丸紅
みずほフィナンシャルグループ
みずほ証券
三井住友海上火災保険
三井住友銀行
三井住友信託銀行
三菱電機
三菱ガス化学
明治安田生命相互会社
メンバーズ
読売新聞西部本社
ライボ
ラクーンホールディングス
楽天カード
楽天銀行
理想科学工業
レバレジーズ
ワールドインテック

2018年9月、経済学部は伊都キャンパスへの移転が完了しました。それに伴い、1年生から4年生までひとつのキャンパスで学べるようになりました。

講義室・演習室

大学の授業は「講義」と「演習（ゼミ）」に大別できます。講義は科目の性質によって、大人数で行うこともあれば、比較的少人数で行うこともあります。これに対して、経済学部が重視している演習は少人数形式の授業です。経済学部には、こうした講義と演習のどちらにも対応できるよう、視聴覚設備を整えた様々な大きさの講義室・演習室が備わっています。

経済学部学生サロン（Echo）

経済学部では、学生サービス向上の一環として、学生サロンを設置しています。学生サロンには“Echo”という愛称があり、これは経済学部の学生が名付けました。経済のEconomyに、学生の話し声が響いてくるというEchoが重ねられています。

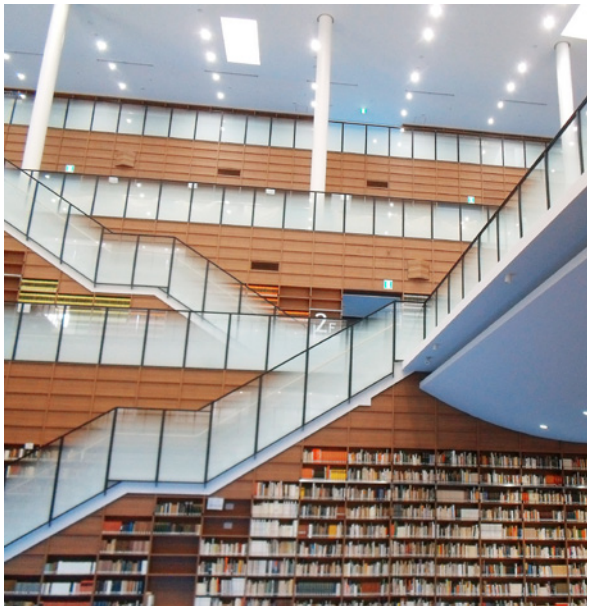
サロンには40脚ほどの椅子があり、日本経済新聞や日経ビジネスなどの雑誌を読むこともできます。また、サロンには無線LANも完備されており、PCを持ち込むこともできます。

Echoは学生同士の交流の場として活用されています。

中央図書館

「次の百年を担う図書館であること～アジアのトップブランドとして～」を基本コンセプトに、収蔵能力350万冊を有する国内最大規模の図書館として、2018年10月に全面開館しました。

150万冊収蔵可能な自動書庫と、可動式の机・椅子を配置したフレキシブルな学習空間であるアクティブ・ラーニング・スペースを中心にサービスを提供しています。



経済学部キャンパス アクセスMAP

九州大学本学のアクセスページはこちらです。

九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学経済学部

〒819-0395 福岡市西区元岡744
TEL 092-802-6383（人文社会科学系事務部教務課経済担当）
［九州大学 URL］ http://www.kyushu-u.ac.jp/
［経済学部 URL］ http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/